

## 2023 年度 研究所事業報告書

研究所名	人間科学研究所
------	---------

## I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2023 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

## 1. 重点プロジェクトの推進

「法と対人援助」（テーマ：法と対人援助にかかわる総合的研究）、「対人援助の学融的研究」（テーマ：学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成）、「対人援助研究のフロンティア」（テーマ：「対人援助」を取り巻く諸課題の解決に寄与する基礎研究・応用研究）の3課題を重点プロジェクトとし、第4期拠点形成型 R-GIRO 研究プログラムの研究プロジェクト「高齢者の認知的コミュニケーションの支援に向けた学際的研究拠点の形成」と連携を行いつつ、研究展開を行った。上記にサブ・プロジェクトを組み込んだ研究プロジェクトを実施し、多彩な活動が展開された。特筆すべき成果・取り組みについては、プログラム・チーム別の詳細な実績報告、各構成メンバーの研究業績にて確認いただきたい。

## 2. 学術誌の刊行と研究所年次総会での研究成果の公開

- 査読論文を中心とする『立命館人間科学研究』を2号刊行した。また、今年度は研究所の1プロジェクトの研究成果をまとめた総括として、インクルーシブ社会研究を1号刊行した。
- 研究所年次総会は、今年度が日本財団助成の専門職講座の最終年度でもあるため、フォスタリングソーシャルワークの実践者や各分野の専門家を迎えて「子ども家庭支援のネクストステージ」と題し、開催した。養成講座の修了生も多く来場し、全体を通して学内外から70名近くの参加があった。第1部はファミリーホームの実践について、実践者の発表と対話、第2部は地域における養育力を向上させるために必要な実践について、専門家らの発表とディスカッションが行われ、盛況であった。

## 3. 若手研究者の育成

- 各プロジェクトを通して若手研究者主導による実験研究の促進、共同報告や共同執筆、教職協働への参画、社会人大学院の博士号取得や国内外の学会での発表や表彰(学会発表賞)、客員協力研究員の国際会議論文の採択など幅広い成果が見られた。
- 当研究所所属院生が Next フェローシッププログラムに採択され、他にも複数名が日本学術振興会特別研究員に採択された。ほかにも所属院生や研究生が公認心理師・臨床心理士資格の取得を果たした。また、プロジェクトに参加の研究助教がアジア・日本研究機構の准教授に昇進、客員研究員(学振 PD)が中央大学心理学部の講師、特定助教が追手門大学心理学部の講師へ採用された。他にも客員協力研究員が Penn State College of IST の Researcher に着任され、更に Cornell University's College of Agriculture and Life Sciences の Postdoctoral Associate に異動された。
- 今年度も若手研究者を所内重点・萌芽プロジェクトメンバーとし、創思館に現有するプロジェクト室を提供するなど、研究資源の配分を積極的に行うとともに研究上の連携を奨励した。

## 4. その他研究の展開

- JST-RISTEX「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)への包括的実践研究開発プログラム」に申請した(研究課題名「司法の公正性確立に向けた法科学鑑定プロトコル策定プロジェクト」)。結果は不採択であった。
- 科学研究費補助金 基盤研究(A)に複数課題で申請した(研究課題名「Learning by teaching を導入した協同学習の知的学習支援システムに関する総合的検討」、「ポストコロナ社会における養育者と子どもの well-being 増進に向けた領域架橋的研究」、「文化心理学の方法論としての TEM(複線径路等至性モデリング)の展開」)。結果はそれぞれ不採択であったが、外部資金獲得に向けて果敢な取り組みを継続的に行っている。
- 社会的要請に直接対応する事業を以下のように展開した。①日本財団助成金を受け、高度専門職養成に向けて実施している「フォスタリング・ソーシャルワーク専門職講座」を開講し、5期生22名が修了(2023年度が最終年度)。助成期間5年間で100名超が講座を修了した。②京都府委託事業として、男性問題にかかわる専門相談員によるDV加害者更生カウンセリングを実施した。③日本財団による助成を受け、子ども・若者ケアラー支援にかかわる社会資源の開発に着手した。宿泊付きキャンプ事業(ケアラーの余暇活動、親・家族との物理的距離化)、当事者とともに考える専門職養成講座の実施、博士課程院生・補助研究員とともに学会でのセッションを実施し、4名が発表した。また、学部生メンバーの一人は精神疾患の親をかかえる子ども・若者に対して、オンラインの居場所や個別相談といった支援を実施するNPO団体(COCOfeli)を立ち上げた。
- プロジェクトAのメンバーが代表として、暴力に関わる加害者臨床を实践するための一般社団法人 UNLEARN(アンラーン)を設立した。

## II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長	矢藤 優子	総合心理学部	教授
運営委員	若林 宏輔	総合心理学部	准教授
	稲葉 光行	政策科学部	教授
	松田 亮三	産業社会学部	教授
	岡田 まり	産業社会学部	教授
	石田 賀奈子	産業社会学部	教授
	中村 正	産業社会学部・人間科学研究科	教授
	岡本 尚子	産業社会学部	准教授
	土田 宣明	総合心理学部	教授
	サトウタツヤ	総合心理学部	教授
	林 勇吾	総合心理学部	教授
	御旅屋 達	産業社会学部	教授
	斎藤 真緒	産業社会学部	教授
	竹内 謙彰	産業社会学部	教授
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
	村本 邦子	人間科学研究科	教授
	安田 裕子	総合心理学部	教授
	増田 梨花	人間科学研究科	教授
	森久 智江	法学部	教授
柏木 智子	産業社会学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	早川 岳人	衣笠総合研究機構	教授
	徳永 祥子	衣笠総合研究機構	准教授
	大谷 いづみ	産業社会学部	教授
	川端 美季	衣笠総合研究機構	准教授
	中鹿 直樹	総合心理学部	准教授
	春日 彩花	総合心理学部	助教
	孫 怡	アジア日本研究機構	助教
	山浦 一保	スポーツ健康科学部	教授
	堀江 未来	国際教育推進機構	教授
	山口 洋典	共通教育推進機構	教授
	北川 智利	BKC 総合研究機構	教授
	高橋 康介	総合心理学部教授	教授
	鈴木 華子	総合心理学部	教授
	和田 有史	食マネジメント学部	教授
	南 博文	OIC 総合研究機構	教授

	岡本 直子	総合心理学部	教授	
	津止 正敏	産業社会学部	特任教授	
	泉 朋子	情報理工学部	准教授	
	西原 陽子	情報理工学部	教授	
	大津 耕陽	情報理工学部	助教	
	谷 晋二	総合心理学部	特任教授	
	森岡 正芳	総合心理学部	教授	
	荒木 穂積	人間科学研究科	授業担当講師	
	山岸 典子	グローバル教養学部	教授	
	姫野 有紀子	生命科学部	助教	
	木村 朝子	情報理工学部	教授	
	柴田 史久	情報理工学部	教授	
	Christian Arzate Cruz	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教	
	橋口 哲志	立命館グローバル・イノベーション研究機構	准教授	
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	山田 早紀	衣笠総合研究機構	研究員
		坂井 めぐみ	衣笠総合研究機構	専門研究員
		シン・ジュヒョン	衣笠総合研究機構	専門研究員
		連 傑濤	OIC 総合研究機構	専門研究員
		中田 友貴	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		Xanat Vargas Meza	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		安藤 雅行	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント	万 珽	人間科学研究科	博士課程後期課程
	③ 大学院生	廣田 貴也	人間科学研究科	博士課程後期課程
		リュウ・タクウ(LIU Zeyu)	人間科学研究科	博士課程後期課程
		水野 亮太	人間科学研究科	博士課程後期課程
		木村 祐子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
相馬 才乃		社会学研究科	博士課程前期課程	
井上 智恵		社会学研究科	博士課程後期課程	
宮宇 地雄介		社会学研究科	博士課程後期課程	
田中 秀典		社会学研究科	博士課程前期課程	
ホウ ギョウウ		社会学研究科	博士課程前期課程	
市川 岳仁		人間科学研究科	博士課程後期課程	
天野 諭		人間科学研究科	博士課程後期課程 /学振特別研究員 DC2	
安發 明子		人間科学研究科	博士課程後期課程 /学振特別研究員 DC2	

工藤 芳幸	人間科学研究科	博士課程後期課程
松本 健輔	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
中原 京子	社会学研究科	博士課程前期課程
中井 良平	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
高 雅郁	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
安田 智博	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
高山 仁志	人間科学研究科	博士課程後期課程
穴穂 優季	人間科学研究科	博士課程前期課程
感應 菜摘美	人間科学研究科	博士課程前期課程
河村 優紀	総合心理学部	学部生 5 回生
戸名 久美子	人間科学研究科	博士課程後期課程
安井 美鈴	人間科学研究科	博士課程後期課程
河上 実樹	人間科学研究科	博士課程後期課程
中北 千景	総合心理学部	学部生 4 回生
木村 駿斗	人間科学研究科	博士課程後期課程
松尾 光代	人間科学研究科	博士課程後期課程
小林 藍	人間科学研究科	博士課程前期課程
近江 涼音	人間科学研究科	博士課程前期課程
鶴原 美佑	人間科学研究科	博士課程前期課程
武田 悠衣	人間科学研究科	博士課程後期課程
福山 未智	人間科学研究科	博士課程後期課程
杉本 菜月	人間科学研究科	博士課程後期課程
新屋 陽子	人間科学研究科	博士課程前期課程
齋藤 優希	人間科学研究科	博士課程前期課程
秋口 楓	人間科学研究科	博士課程前期課程
中野 紗希	人間科学研究科	博士課程前期課程
下條 志巖	人間科学研究科	博士課程後期課程
安陪 梨沙	人間科学研究科	博士課程後期課程
渡辺 咲花	人間科学研究科	博士課程前期課程
銭 宝怡	人間科学研究科	博士課程後期課程
山岸 明日香	人間科学研究科	博士課程前期課程
山澤 結以	人間科学研究科	博士課程前期課程
信貴 雅	情報理工学研究科	博士課程前期課程
香月 瑠人	情報理工学研究科	博士課程前期課程
Zhang Pin	人間科学研究科	博士課程後期課程
Li Sheng	人間科学研究科	博士課程後期課程
紺田 真穂	人間科学研究科	博士課程後期課程
Tao Orin	人間科学研究科	博士課程後期課程
平松 祐佳	人間科学研究科	博士課程後期課程
仲上 恭子	人間科学研究科	博士課程後期課程
松元 佑	社会学研究科	博士課程後期課程
近藤 優佳	人間科学研究科	博士課程後期課程

吉田 崇裕	人間科学研究科	博士課程前期課程
服部 虎太郎	人間科学研究科	博士課程前期課程
八田 知哉	人間科学研究科	博士課程前期課程
陣内 里紗	人間科学研究科	博士課程前期課程
浅野 史奈	人間科学研究科	博士課程前期課程
松村 奈津	人間科学研究科	博士課程前期課程
蓼沼 力	人間科学研究科	博士課程前期課程
穴穂 優季	人間科学研究科	博士課程前期課程
石田 美咲紀	人間科学研究科	博士課程前期課程
肩野 礼華	人間科学研究科	博士課程前期課程
香月 みかん	人間科学研究科	博士課程前期課程
金居 みずき	人間科学研究科	博士課程前期課程
西尾 綾華	人間科学研究科	博士課程前期課程
服部 繭子	人間科学研究科	博士課程前期課程
松尾 早紀子	人間科学研究科	博士課程前期課程
水川 早紀	人間科学研究科	博士課程前期課程
向井 直史	人間科学研究科	博士課程前期課程
柳井 有加里	人間科学研究科	博士課程前期課程
金谷 伶菜	人間科学研究科	博士課程前期課程
川村 涼夏	人間科学研究科	博士課程前期課程
尾崎 文音	人間科学研究科	博士課程前期課程
福田 長子	人間科学研究科	博士課程前期課程
藤本 和希	人間科学研究科	博士課程前期課程
松村 美和	人間科学研究科	博士課程前期課程
石黒 和	人間科学研究科	博士課程前期課程
串上 友里恵	人間科学研究科	博士課程前期課程
末永 大清	人間科学研究科	博士課程前期課程
高木 美歩	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
橋本 雄太	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
田中 美穂	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
川崎 雅貴	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
船曳 美千子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
忠岡 経子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
江波戸 傑	情報理工学研究科	博士課程前期課程
永留 菜花	情報理工学研究科	博士課程前期課程
中村 仁一朗	情報理工学研究科	博士課程前期課程
中村 哲朗	情報理工学研究科	博士課程前期課程
野崎 颯人	情報理工学研究科	博士課程前期課程
林 真平	情報理工学研究科	博士課程前期課程
林 佑一	情報理工学研究科	博士課程前期課程
和田 洸一	情報理工学研究科	博士課程前期課程
市原 瑞士	情報理工学研究科	博士課程前期課程

		内田 圭祐	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		狩山 大治	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		近藤 翔太	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		羽田野 将大	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		早川 魁人	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		樋口 雄大	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		藤原 侑史	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		松下 彩夏	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		木村 竜	情報理工学部	学部4年
		高永 侑輝	情報理工学部	学部4年
		山田 直樹	情報理工学部	学部4年
		久田 悠平	情報理工学部	学部4年
		YUN Jonghee	情報理工学部	学部4年
		大濱 陵	情報理工学部	学部4年
		宮田 来輝	情報理工学部	学部4年
		伝 真実	情報理工学部	学部4年
		久野 凌雅	情報理工学部	学部4年
		湯谷 菜王子	社会学研究科	博士課程後期課程
		徳竹 綾香	社会学研究科	博士課程前期課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)		桂 悠太	学振特別研究員
		西井 開	学振特別研究員/千葉大学	PD
その他の <u>学内者</u> (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		森井 花音	人間科学研究科	博士課程前期課程 (研修生)
		金 成恩	衣笠総合研究機構	プロジェクト研究員
		尾崎 怜子	人間科学研究科	研修生
		水月 昭道	総合心理学部	訪問教授
		神崎 真実	立命館グローバル・イノベーション研究 機構	特定助教
		土元 哲平	OIC 総合研究機構 ものづくり質 的研究センター	客員研究員/PD
		河西 優	衣笠総合研究機構 人間科学研 究所	補助研究員
		武石 卓也	衣笠総合研究機構 人間科学研 究所	補助研究員
客員協力研究員		浜田 寿美男	衣笠総合研究機構 人間科学研 究所	客員協力研究員 (上席研究員)
		平岡 義博	衣笠総合研究機構 人間科学研 究所	客員協力研究員 (上席研究員)
		笹倉 佳奈	衣笠総合研究機構 人間科学研 究所	客員協力研究員 甲南大学・教授
		山崎 優子	衣笠総合研究機構 人間科学研 究所	客員協力研究員 駿河台大学・准教授

	知花 鷹一郎	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 弁護士
	川崎 拓也	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 弁護士
	和食 慶江	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員
	松島 京	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 相愛大学・教授
	由井 秀樹	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 山梨大学・特任助教
	村上 慎司	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 金沢大学・講師
	棟居 徳子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 早稲田大学・教授
	高山 一夫	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 京都橘大学・教授
	西沢 いづみ	衣笠総合研究機構 地域健康社 会学研究センター	客員協力研究員
	大倉 和子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 明治国際医療大学・講 師
	金森 京子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員
	江頭 典江	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 京都先端科学大学・嘱 託講師
	坪倉 浩美	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員
	千葉 晃央	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員
	荒木 晃子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員
	山崎まどか	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員/ フクダ電子㈱
	黒田 恭史	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員/ 京都教育大学・教授
	土田 菜穂	OIC 総合研究機構	客員協力研究員/ 京都市立総合支援学 校
	吉田 甫	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員
	石川 眞理子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員
	高橋 伸子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員

	Barratt,Peg.	OIC 総合研究機構	Visiting Senior Researcher
	李 星鎬	アジア・日本研究機構	客員研究員
	川本 静香	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員/ 京都精華大学・准教授
	手島 洋	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員/ 県立広島大学・講師
	大原 ゆい	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員/ 大谷大学・准教授
	大野 静代	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員
	西田 朗子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員/ 東亜大学・准教授
	都賀 美有紀	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員/ 関西学院大学・特任助教
	荒木 美知子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員
	松室 美紀	OIC 総合研究機	客員協力研究員/ コーネル大学・ Postdoctoral Associate
その他の学外者	小池 由佳	新潟県立大学	教授
	高橋 康史	日本福祉大学	助教
	安 孝淑	韓国 ALS 協会	理事(企画ディレクター)
	坂田 陽子	愛知淑徳大学	教授
	與久田 巖	奈良大学社会学部	教授
	中村 隆一	元立命館大学教員	特別契約教授
	亀山 裕樹	北海道大学	博士課程前期課程
	平井 登威	関西大学社会安全学部	学部 2 回生
	竹田 明子	(公財)京都市ユースサービス協会	職員
研究所構成員 計 226 名 (うち学内の若手研究者 計 125 名)			

### Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024年3月31日時点)  
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	Mitsuyuki Inaba	Grounded Text Mining Approach: An Integration Strategy of Grounded Theory and Textual Data Mining.	共著	2023年11月	Sage Handbook of Mixed Methods Design. C. Poth.(Ed.)	Hisako Kakaki	328-345
2	石田 賀奈子	基礎から考える社会保障	共著	2024年3月	自治体研究社	村田 隆史・長友 薫輝・曾我 千春 他	PP. 147~162

3	安發 明子	一人ひとりに届ける福祉が支える フランスの子どもの育ちと家族	単著	2023年8月	かもがわ出版		全196ページ
4	岡田 まり	実践ソーシャルワーク・スーパーバージョン	共編著	2023年4月	中央法規出版	浅野 正嗣、小山 隆、野村 豊子、宮崎 清恵	PP. 81~102
5	土田 宣明	人物で読む心理学辞典 (レリヤの項目を担当)	共著	2024年2月	朝倉書店	サトウタツヤ他	pp. 127-132
6	矢藤 優子	現代中国の子育てと教育	共著	2023年3月	ナカニシヤ出版	吉 沅洪、孫 怡	
7	孫 怡	現代中国の子育てと教育	共著	2023年3月	ナカニシヤ出版	矢藤 優子、吉 沅洪	PP. 47-85
8	サトウタツヤ	人物で読む心理学事典	監修	2024年2月	朝倉書店	長岡 千賀・横光 健吾・和田 有史(編)	全424頁
9	山浦 一保	무기가 되는 리더의 심리학 수업 -나를 지키고 타인을 움직이는 '집단 심리'의 힘-	単著	2024年1月10日	코리아닷컴 (Korea.com)	山浦 一保 / 아마우라 가즈호	全208ページ
10	山浦 一保	心理学検定 専門用語&人名辞典	共著	2023年6月25日	実務教育出版	山浦 一保(共著) / 一般社団法人日本心理学諸学会連合心理学検定局(編集)	
11	堀江 未来	国際教育で育む異文化感受性—多文化環境での対話的で深い学びのために	共編者(共編著者)	2024年3月30日	学文社	秋庭 裕子・筆内 美砂・堀江 未来・松本 哲彦	全214ページ
12	鈴木 華子	大学教員のワーク・ライフ多様性を包摂する社会に向かって	分筆執筆	2023年7月15日	心理職の仕事と私生活 若手のワーク・ライフ・バランスを考える, 福村出版	伊藤 正哉・山口 慶子・榎原 久直(編)	第二部第5章
13	津止 正敏	ケア・コミュニティの臨床II	単著	2024年3月25日	人間研男性介護研究会(ケア・コミュニティプロジェクト)		全76頁
14	竹内 謙彰・荒木 穂積・荒木 美知子・松元 佑	インクルーシブ社会研究 22 療育プログラム開発の 20 年	共著	2023年10月	立命館大学人間科学研究所		
15	美馬 達哉	わかりやすい「リスク」に隠された落とし穴 (インタビュー) 『天才たちのインテリジェンス』	共著	2024年3月	ポプラ社	佐藤 優編	PP. 167~185
16	美馬 達哉	過剰なのは医療ではなくセキュリティ? —生政治とは— 『「過剰医療」の構造』	共著	2024年2月	ビジネス社	藤井 聡編	PP. 62~65
17	斎藤 真緒	イギリスの学校ではどんな取り組みをしているのか?」	単著	2024年3月	学事出版『ヤングケアラー支援の理解と支援〜見つける・理解する・知ってもらう〜』	仲田 海人・門田 行史編	54-62頁
18	Mao Saito	Male Caregivers in Japan: Between Care and Masculinity	単著	2023年6月	<i>Sustainability, Diversity, and Equality: Key Challenges for Japan</i>	Tanaka Kimiko and Herain Selin (eds.)	PP. 425-437
19	村本 邦子	平和学辞典	共著	2023年6月21日	丸善出版, 日本平和学会編		9-20 心理学による紛争アプローチ、9-21 トラウマと癒し
20	村本 邦子	戦争と文化的トラウマ—日本における第二次瀬愛大戦の長期的影響	分担執筆	2023年4月25日	日本評論社	竹島 正、森 茂起、中村 江里 編	第16章 日中戦争によるトラウマの世代間連鎖と修復の試み 219-231頁
21	増田 梨花	わたせせいぞうの世界 心理学で読み解く恋人たちの物語	共著	2024年2月15日	晃洋出版	増田梨花・山田雄登(編・著)	
22	増田 梨花	ロッキーとリカ マスクの巻	共著	2023年8月1日	ほんの森出版	増田梨花・アレックス・ホー(作・絵)	
23	森久 智江	日本の青少年の行動と意識 国際自己申告非行調査 (ISRД) の分析結果	共著	2024年3月21日	ISRД-JAPAN 実行委員会(現代人文社)	都島梨紗・森久智江	17-30 教育現場の論理と調査地選定に係る問題

24	柏木 智子	『「探究学習」とはいけれど一学びの「今」に向き合う』	編者(編著者)	2024年1月20日	晃洋書房	清水優菜・村松灯・田中智輝・荒井英治郎・大林正史・松村智史・古田雄一・武井哲郎	133
25	柏木 智子	コミュニティと教育(放送大学教材 1141) 「第6章第3節 事例から見る高等学校「総合的な探究の時間」の現在」「第8章 コミュニティづくりと子どもの参加」「第13章 コミュニティにおける教育と福祉」	分担執筆	2024年3月20日	放送大学	仲田 康一(著), 大木 真徳(著)	95-103, 119-140, 195-210
26	柏木 智子	『子どもの思考を深めるICT活用一公立義務教育学校のネクストステージ』	編者(編著者)	2023年6月20日	晃洋書房	姫路市立豊富小学校	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	若林 宏輔	法律実務家のための心理学入門 第24回 司法取引の心理学(3)	単著	2024年1月	季刊刑事弁護, 117		pp.160-163	無
2	若林 宏輔	法律実務家のための心理学入門 第23回 司法取引の心理学(2)	単著	2023年10月	季刊刑事弁護, 116		pp.146-149	無
3	若林 宏輔	法と心理学会第23回大会ワークショップ報告・法学・経済学・心理学からみる司法取引	共著	2023年10月	法と心理, 23	緑 大輔・大角 洋平・廣田 貴也・桜井光政	63-69	有
4	若林 宏輔	法律実務家のための心理学入門(第22回)法科学鑑定 of 誤りと心理学的バイアス(3)	単著	2023年7月	季刊刑事弁護, 115		175-178	無
5	若林 宏輔	法廷劇を用いた対面・遠隔証言の差異に関する心理学実験の報告(特集 ビデオ証言をめぐる法と心理学)	単著	2023年4月	季刊刑事弁護, 114	水野 亮太	88-91	無
6	Mitsuyuki Inaba	Can we spot fake public comments generated by ChatGPT(-3.5, -4)?: Japanese stylometric analysis expose emulation created by one-shot learning	共著	2024年3月	PLOS ONE PLOS ONE 19(3)	Wataru Zaitso, Mingzhe Jin, Shunichi Ishihara, Satoru Tsuge	e0299031	有
7	松田 亮三	医療同等性の徹底に向けて: 欧州の経験からの示唆	単著	2023年11月	日本刑法学会, 刑法雑誌	筆頭著者, 最終著者, 責任著者	63(1),45-56	招待論文
8	松田 亮三	人々の多様性と正面から向き合う取り組みを	単著	2023年8月	自治体研究社, 住民と自治	筆頭著者, 最終著者, 責任著者	(724),4	招待論文
9	松田 亮三	医療の必要の不充足の社会的可視化: 普遍医療給付の徹底に向けて	単著	2023年6月	貧困研究会, 貧困研究	筆頭著者, 最終著者, 責任著者	30,5-13	招待論文
10	松田 亮三	「コロナ後」に向けた地方公衆衛生行政の課題: 地方制度との関わりで	単著	2023年4月	大月書店, 季刊自治と分権		(91),41-51	招待論文
11	松田 亮三	問われる「開業医」像—国際的動向をみながら考える	単著	2023年4月	大阪保険医雑誌, 大阪保険医協会		No.680: 10-13.	無

12	岡田 まり	社会福祉士とソーシャルワーク教育	単著	2023年7月	ソーシャルワーク研究 1(3)		PP. 183~191	無
13	早川 岳人	Relationship between hemoglobin concentration and cardiovascular disease mortality in a 25-year follow-up study of a Japanese general population: NIPPON DATA90	共著	2024年2月	Circulation Journal, doi:10.1253/circj.CJ-23-0725	Kawashima M, Hisamatsu T, Harada A, Kadota A, Kondo K, Okami Y, Hayakawa T, Kita Y, Okayama A, Ueshima H, Okamura T, Miura K, for the NIPPON DATA90 Research Group	88: 742-750	有
14	早川 岳人	Smoking habit is associated with impaired long-term quality of life in elderly people: a 22-year cohort study in NIPPON-DATA 90.	共著	2023年9月	J Epidemiol. doi: 10.2188/jea.JE20220226..	Liu YW, Okamura T., Hirata A, Sato Y, Hayakawa T, Kadota A, Kondo K, Ohkubo T, Miura K, Okayama A, Ueshima H, for the NIPPON DATA90 Research Group		有
15	石田 賀奈子	逆境の体験を経て大人になる子どもの自立支援	単著	2024年3月	大学教育出版季刊ふくしと教育 38号		PP. 26~29	無
16	中村 正	臨床社会学の方法(43) 鏡の背面-他者をととした欲望の実現	単著	2023年12月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(3)		PP. 25~35	無
17	中村 正	性暴力・ジェンダー暴力連続体と治療的司法	共著	2023年10月	法と心理学会、法と心理、23(1)	中村 正、安田 裕子、藤澤 陽子、宮崎 浩一、山口 修平、後藤 弘子		無
18	中村 正	臨床社会学の方法(42) 『知らないこと』はつくられている-無知の姿勢・無知の知を超える『無知学』へ	単著	2023年9月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(2)		PP. 25~34	無
19	中村 正	臨床社会学の方法(41) DV 防止システムの構築-地域における暴力抑止の体系化	単著	2023年6月	対人援助学会、対人援助学会マガジン、14巻21号		PP. 21~31	無
20	岡本 尚子	算数文章問題における場面を想像できることの重要 -日本語指導を必要とする児童を対象とした事例研究-	単著	2024年3月	立命館産業社会論集 Vol.59, No.4		PP. 1-13	有
21	川端 美季	関東大震災と植民地統治下の公衆浴場	単著	2024年2月	植民地文化学会、植民地文化研究、22号	なし	13 - 20 頁	無
22	春日 彩花	高齢期の幸福感と知恵	共著	2023年9月	老年精神医学	権藤 恭之	pp.835-842	招待論文
23	Ayaka,K	Hofstede's Cultural Values and Birth Rate and Longevity: A National-Level Analysis	共著	2023年7月	Journal of Adult Development	Kumi Hirokawa, Ayaka Kasuga, Yasuyuki Gondo, Kaori Honjo, Vas Taras	31(2),87-98	有
24	Ayaka,K	Longitudinal association of hypertension and dyslipidemia with cognitive function in community-dwelling older adults: the	共著	2023年4月	Hypertension Research, Springer Science and Business Media LLC	Yuko Nakamura, Mai Kabayama, Kayo Godai, Winston Tseng, Hiroshi Akasaka, Koichi Yamamoto, Yoichi		有

		SONIC study				Takami, Yasushi Takeya, Yasuyuki Gondo, Saori Yasumoto, Madoka Ogawa, Ayaka Kasuga, Yukie Masui, Kazunori Ikebe, Yasumichi Arai, Tatsuro Ishizaki, Hiromi Rakugi, Kei Kamide		
25	矢藤 優子	養育者からの分離による脅威が誤信念課題に及ぼす阻害的影響	共著	2024年3月	立命館大学人間科学研究所, 立命館人間科学研究, 48巻	亀井 隆幸, 八木 保樹		有
26	孫 怡, 連 傑 濤, 矢藤 優子	Initial Challenges and Protective Factors for the QOL of Mothers with Young Children during COVID-19: Japan and China.	共著	2023年10月	ASIA-JAPAN RESEARCH INSTITUTE of RITSUMEIKAN UNIVERSITY, Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University, 5, 66	Jiang, L., Sun, X., Zhang, S., Kanzaki, M.		有
27	サトウタツヤ	対立から相補性へ、多様性から複線性へ—産学官連携に質的研究をどのように役立てるか	単著	2024年3月	日本質的心理学会質的心理学研究 (23)		PP. 47~55	招待論文
28	サトウタツヤ	13年間202回のコスプレ経験のプロセス写真を用いた検討(2009-2021)	共著	2024年3月	立命館大学ものづくり質的研究センター質的研究と社会実装 1(1)	福山 未智	PP. 48~65	有
29	サトウタツヤ	コロナ後の文化心理学ネットワーク、再始動帰って来た__対人援助学縦横無尽(1)	単著	2024年3月	対人援助学会対人援助学マガジン (56)		PP. 64~81	無
30	堀江 未来	Rits Global Gateway Camp:小大連携によるグローバル教育の新しい形	共著	2024年3月1日	学校法人立命館 附属校教育研究・研修センター, 立命館附属校教育研究紀要	三ツ木 由佳・Janiele Shirley・堀江 未来	(9),31-41	無
31	堀江 未来	国際教育のための「ブレンデッド・ラーニング」の概念および要素の整理—海外におけるブレンデッド・ラーニング理論に着目して—	共著	2023年6月30日	南山大学, アカデミア(文学・語学編)	小野 詩紀子・堀江 未来・濤岡 優・藤井 基貴	114,65-82	無
32	山口 洋典	PBLの風と土:(28) 担い手を理論がつなぎ方法論でつなげる	単著	2024年3月	対人援助学会, 対人援助学マガジン, 14(4)		PP. 207~212	無
33	山口 洋典	PBLの風と土:(27) 地域貢献は教育・研究・活動との交差点	単著	2023年12月	対人援助学会, 対人援助学マガジン, 14(3)		PP. 158~163	無
34	山口 洋典	PBLの風と土:(26) 大学での活動が地域における学習機会に	単著	2023年9月	対人援助学会, 対人援助学マガジン, 14(2)		PP. 169~174	無
35	山口 洋典	PBLの風と土:(25) 立場を超えた対話的理解で地域の変容を	単著	2023年6月	対人援助学会, 対人援助学マガジン, 14(1)		PP. 149~154	無
36	鈴木 華子	School refusal as a representation of questioning normality: Understanding the richness of socio-cultural transitions	共著	2023年9月	Culture and Psychology	Kanzaki, M. & Suzuki, H.	29(3),644-659	有

37	和田 有史	①視覚を知る ②認知心理学から探る、菓子のデザイン	単著	2023年7月24日	お菓子の完成度を高める香り・食感・デザインレシピから探るパティシエ 36人の思考力と表現力・嗅覚, 柴田書店		156-157	無
38	大津 耕陽・木内 敬太・林 勇吾	高齢者を対象としたチャットボットによる対話型の心理的支援:解決志向アプローチを用いた実験的検討	共著	2024年1月	情報処理学会論文誌 65 巻 1号	なし	PP. 151-166	有
39	下條 志巖・大本 義正・森田 純哉・林 勇吾	外化された自己-他者の知識の差異への気づきの促進:協調的な説明活動の支援に関する実験的検討	共著	2024年1月	電子情報通信学会論文誌 DJI107-D 巻 1号	なし	PP. 1-11	有
40	Hayashi, Y.	Newcomers and the Innovative Group Process: An Experimental Investigation of Convergence in Collaborative Problem Solving	単著	2023年11月	Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition 49 巻 11号	なし	PP. 1786-1798	有
41	Hayashi, Y.	Newcomers and the Innovative Group Process: An Experimental Investigation of Convergence in Collaborative Problem Solving	単著	2023年11月	Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition 49 巻 11号	なし	PP. 1786-1798	有
42	津止 正敏・手島 洋・大原 ゆい・大野 静代	介護する、いごっそう-実態と支援の課題-	共著	2024年3月10日	ケアメンいごっそう 男性介護者と支援者の全国ネットワーク		全96頁	無
43	津止 正敏	男性介護者あのネットワーク活動を通して見えてくる「介護問題」	単著	2024年2月10日	(一社)部落解放・人権研究所、ヒューマンライツ、第431号		4頁	無
44	津止 正敏	男性介護者の孤立防止	単著	2023年8月31日	一般社団法人日本高齢者虐待防止学会、創立20周年記念誌		3頁	無
45	大津 耕陽	Talkative Quill: 語り掛けによって漢字の字形の主體的な想起を促す対話型筆記具	共著	2024年2月	ヒューマンインタフェース学会、ヒューマンインタフェース学会論文誌, 26巻1号	泉 朋子	PP. 1~14	有
46	Zhang Pin	Assessing the Functions of Japanese Words for Self Using the Implicit Relational Assessment	共著	2023年8月	Journal of Contextual Behavioral Science(ACBS)	Tani, Shinji.		有
47	Tani, S.	Relational Frame Theory-Oriented Acceptance & Commitment Therapy Matrix for Autism-Spectrum Disorder: A Clinical Case Report	単著	2023年3月	RITSUMEIKAN JOURNAL OF HUMAN SCIENCES 47,pp.13-23		13-23	有
48	張 品	文脈に対する感受性を促進するエクササイズによる利他的行動の関係反応の変化	共著	2023年3月	立命館人間科学研究 46,1-16	Tani Shinji		有
49	張 品	自己概念に対する関係フレーム理論からの理解と研究の展望	共著	2023年3月	立命館人間科学研究 46,47-60	谷 晋二		有

50	Mima, T.	Tackling social anxiety with targeted brain stimulation: investigating the effects of transcranial static magnetic field stimulation on self-focused attention	共著	2024年3月	Frontiers in behavioral neuroscience, 18: 1373564	*Tomita N, Katayama H, Kurihara Y, Takahashi T, Shibata S, Osu R, Kumano H		有
51	美馬 達哉	ケアから労働をみる— 解釈労働論のためのメモ	単著	2024年2月	青土社, 現代思想, 52巻3号		PP. 206~212	無
52	Mima, T.	Case report: An N-of-1 study using amplitude modulated transcranial alternating current stimulation between Broca's area and the right homotopic area to improve post-stroke aphasia with increased inter-regional synchrony	共著	2024年2月	Frontiers in behavioral neuroscience, 18: 1297683	Omae E, Shima A, Tanaka K, Yamada M, Cao Y, Nakamura T, Hoshiai H, Chiba Y, Irisawa H, Mizushima T, *Koganemaru S		有
53	美馬 達哉	トピックス「身体完全性違和(Body Integrity Dysphoria: BID)	単著	2023年11月	先端医学社, 精神科 Resident, 4巻4号秋		PP. 62~65	無
54	木村 朝子, 柴田 史久	R-V 空間相互間で物理現象を伝達する複合現実遷移モジュールの開発—運動状態を伝達するモジュール群とコンテンツ開発支援ツール—	共著	2023年9月	日本バーチャルリアリティ学会論文誌, Vol.28, No.3	福田裕美, 敷島歩	pp. 175 - 185	有
55	松室 美紀, 木村 朝子, 柴田 史久	歩行者飛出し予測のための周辺車両の半隠消表示法	共著	2023年9月	日本バーチャルリアリティ学会論文誌, Vol.28, No.3	藤重秀斗	pp. 141 - 151	有
56	木村 朝子, 柴田 史久	R-V 空間相互間で物理現象を伝達する複合現実遷移モジュールの開発(2) —電圧・電流と磁力を伝達するモジュール群—	共著	2023年9月	日本バーチャルリアリティ学会論文誌, Vol.28, No.3	敷島歩, 福田裕美	pp. 187 - 197	有
57	M.Matsumuro, F. Shibata, and A. Kimura	Generating Haptic Textures with Vibrotactile Under-clothing Wearables	共著	2023年8月	Proc. 15th Asia-Pacific Workshop on Mixed and Augmented Reality (APMAR 2023)	Daichi Kariyama		有
58	Y. Kataoka, F. Shibata, and A. Kimura	Analysis and Considerations of the Controllability of EMG-based Force Input	共著	2023年7月	Proc. Human-Computer Interaction Int. 2023 (HCII 2023)	Hayato Nozaki, Christian Arzate Cruz	pp. 563 - 572	有
59	M.Matsumuro, F. Shibata, and A. Kimura	Real-time co-embodiment of a virtual avatar improves movement performance	共著	2023年6月	Proc. the 21st International Multisensory Research Forum (IMRF2023)	Marie Morita, Tetsuro Nakamura, Akihiko Gobara, Norimichi Kitagawa	#124	有
60	S. Hashiguchi, F. Shibata, and A. Kimura	Point & Teleport with orientation specification, revisited: Is natural turning always superior?	共著	2023年6月	情報処理学会論文誌, Vol. 64, No. 6	Shohei Mori	pp. 81882 - 7764	有

61	斎藤 真緒	「ヤングケアラー支援の課題」	単著	2023年8月	『健康教室』877号	東山書房, 仲田海人	26-29頁	無
62	斎藤 真緒	『子ども・若者ケアラー』をとりまく現状とジェンダー・家族	単著	2023年5月	『We learn』829号	日本女性学習財団	4-7頁	無
63	斎藤 真緒	ヤングケアラーはどんな「問題」なのか？ケアラー支援との接続に向けた視座—	単著	2023年5月	萌文書林『子ども学』11号	白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所	153-172頁	有
64	斎藤 真緒	ヤングケアラー支援の課題	単著	2023年4月	『教育と医学』816号	慶應義塾大学出版会	4-10頁	無
65	亀山 裕樹	ケアを担う子どものケアの状況と学校生活における制約	単著	2024年3月	『子ども発達臨床研究』19号	北海道大学大学院教育学研究科	161-173頁	有
66	亀山 裕樹	ケアをめぐる交渉において子どもが直面する制約の検討—A. Senの協調的対立概念を用いて	単著	2023年8月	『社会福祉学』64巻2号	日本社会福祉学会	1-13頁	有
67	村本 邦子	集会的トラウマと平和ミュージアムの役割～「ピースおおさか」設立の歴史と変移を辿って～	共著	2024年3月25日	立命館平和研究		14(25),67-86	有
68	村本 邦子	周辺からの記憶 42 2021年福島フィールドワーク	単著	2024年3月15日	対人援助学マガジン 56		14(4),127-161	無
69	村本 邦子	周辺からの記憶 41 2021年度多賀城・宮古	単著	2023年12月15日	対人援助学マガジン 55		14(3),104-125	無
70	村本 邦子	歴史のトラウマと平和教育	単著	2023年12月11日	女も男も, 労働教育センター		142(秋・冬),77-82	無
71	村本 邦子	書評『狂気な倫理—「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定』	単著	2023年12月1日	社会と倫理, 南山大学社会倫理研究所		38,150-150	招待論文
72	村本 邦子	周辺からの記憶 40 2021年度むつ	単著	2023年9月15日	対人援助学マガジン 54		14(2),121-136	無
73	村本 邦子	書評 河野貴代美著 『1980年、女たちは「自分」を語りはじめた』	単著	2023年7月15日	幻冬舎, 図書新聞		(3599),3	招待論文
74	村本 邦子	周辺からの記憶 39 2022年度シンポジウム	単著	2023年6月15日	対人援助学マガジン 53		14(1),99-121	無
75	安田 裕子	法と心理学会第23回大会 性暴力・ジェンダー暴力連続体と治療的司法	共著	2023年10月30日	法と心理,	中村正・安田裕子・藤澤陽子・宮崎浩一・山口修平・後藤弘子	23(1),27-33筆頭著者	無
76	増田 梨花	児童養護施設における絵本の読み合わせを活用したピア・サポートに関する研究—職員を対象にした生理指標と感情表出の視点からの一考察—	共著	2023年12月	ピア・サポート研究,		(19),13-26	有
77	増田 梨花	コロナ禍での子どもの生活とピア・サポート実践—オンライン交流会でみてきたこと—	共著	2023年11月	ピア・サポート研究,	増田梨花, 春日井敏之他, 研究調査委員会	(19)	有
78	増田 梨花	児童養護施設における絵本の読み合わせを活用したピア・サポートに関する研究—職員を対象にした生理指標と感情表出の視	共著	2023年11月	ピア・サポート研究,	増田梨花, 鄭平陽・松下健	(19)	有

		点からの一考察-						
79	増田 梨花	対人援助職従事者である発達障がい当事者の就労継続要因の検討II-青年期以降の当事者へのインタビュー調査から-	共著	2023年4月1日 2023年11月4日(口頭)	日本ピア・サポート学会, 札幌創成高等学校, 2024/11/03 ~ 2024/11/04	増田梨花・安井秀仁		有
80	増田 梨花	対人援助職従事者である発達障がい当事者の就労継続要因の検討I-青年期以降の当事者へのインタビュー調査からの一考察-	共著	2023年4月1日 2023年9月17日(口頭)	日本ピア・サポート学会, 新島短期大学, 2023/09/17 ~ 2023/09/18	増田梨花・安井秀仁		有
81	柏木 智子	子どもの貧困対策としての学校と地域の連携方策-地域連携担当教職員に焦点をあてて	共著 (筆頭著者)	2024年3月	学校改善研究紀要, 日本学校改善学会	柏木智子・諏訪英広・真弓(田中)真秀	(6),1-14	招待論文
82	柏木 智子	新型コロナウイルス感染症下でのICT導入にみられる教育長の平等観と取組および校長の実践に関する研究-公正概念に着目して	単著	2023年11月	日本教育制度学会創立30周年記念 日本教育制度学会紀要 特別号, 日本教育制度学会		457-475	有
83	柏木 智子	これからの校長の資質・能力	単著	2023年10月	教職研修, 教育開発研究所		(10月号),56-57	無
84	柏木 智子	「誰一人取り残さない学校」とは、どんな学校か	単著	2023年9月	教職研修, 教育開発研究所		(9月号),20-21	無
85	柏木 智子	公正な社会の形成に資する学校と教員の役割-社会の分断を防ぐケア論に着目して	単著	2023年8月	教育学年報, 世織書房		14,183-204	有

3. 研究発表等						
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名	
1	廣田 貴也・若林 宏輔	想像による被供述者との親密性の違いが日本版司法取引の意思決定に与える影響	2023年10月	法と心理学会第24回大会(於 静岡大学)		
2	LIU ZEYU・若林 宏輔	認知の二重過程理論に基づく加害行為者への量刑判断の検討 法と心理学会	2023年10月	法と心理学会第24回大会(於 静岡大学)		
3	若林 宏輔	法学・経済学・心理学からみる司法取引(2)	2023年10月	法と心理学会第24回大会(於 静岡大学)	緑 大輔・廣田 貴也・大角 洋平・清水 琢磨	
4	若林 宏輔	発話分析を取り入れた司法面接研修の効果と面接評価への影響	2023年10月	法と心理学会第24回大会	武田 悠衣・藤本 和希・仲 真紀子	
5	LIU ZEYU・若林 宏輔	直感・熟慮による非人間化の抑制効果 --異なる場面における非人間化効果の検討--	2023年9月	日本心理学会第87回大会,神戸		
6	Fujimoto, K., & Wakabayashi, K.	Impact of the cognition of lying on verbal deception strategies.	2023年8月	Society for Applied Research in Memory and Cognition (SARMAC) XIV 2023, Nagoya.		
7	Hirota, T.& Wakabayashi, K	The Impact of two types of plea bargaining and the benefits offered on verdict decision and the reliability of statements	2023年7月	Annual Conference of the European Association of Psychology and Law in Cluj-Napoca (Romania), Babeş-Bolyai University.	Korosue, M.	
8	松田 亮三	医療・福祉領域における協同組合-国際的文献からみる(研究)動向-	2024年3月2日	第7回 くらしと協同 研究活動報告会(全体研究会), くらしと協同の研究所	単独	
9	松田 亮三	松田亮三「日本における「健康格差」対策-既存の	2023年7月29日	第64回日本社会医学学会総会, 日本社会医学学会, 早稲田大学	単独	

		政策パラダイムによる限定」			
10	岡田 まり	スーパーバイザーのコンピテンシー —福祉専門職のスーパーバイザー養成研修のモデル構築をめざして	2023年10月	日本社会福祉学会 第71回秋季大会	野村 豊子、片岡 靖子、潮谷 恵美
11	岡田 まり	スーパーバイザー養成研修の理論的枠組み ～スーパーバイザー養成研修のモデル構築をめざして～	2023年7月	日本ソーシャルワーク学会 第40回大会	野村 豊子、片岡 靖子、潮谷 恵美
12	石田 賀奈子	児童期逆境体験が学校生活に与える影響に関する検討	2023年11月	日本子ども虐待防止学会第29回学術集会	大澤 ちひろ 和田 一郎
13	中村 正	ハイリスク・ストーカーへの法と臨床・新たな視点の展開	2023年9月23日	第61回日本犯罪心理学学会大会	指宿 信、後藤 弘子ほか
14	岡本 尚子	外国にルーツを持つ児童の算数文章問題におけるつまづき —状況を想像できることの重要性—	2023年9月30日	第36回日本保健福祉学会学術集会、立命館大学	
15	川端 美季	公衆浴場を必要としたのは誰か：入浴と清潔をめぐる近代史	2023年12月	日本科学史学会生物学史分科会シンポジウム	
16	Kawabata Miki	Bathing and National Morality in Modern Japan	2023年10月	Mid-Atlantic Regional Association for Asian Studies 49th Annual Conference	
17	川端美季	関東大震災と植民地統治下の公衆浴場	2023年7月	植民地文化学会フォーラム「100年目の関東大震災」	
18	OTANI Izumi, KAWABATA Miki	Report on the PLAN 75screening and discussion event	2023年10月	障害学国際セミナー2023 (East Asia Disability Studies Forum 2023)	
19	KAWABATA Miki	The history of Chiyoko Ino, who organized the "Society To Take Back the Mobility of Persons with Disabilities	2023年10月	障害学国際セミナー2023 (East Asia Disability Studies Forum 2023)	IWATA Kyoko
20	安田 智博・高雅郁・ユジンギョン・大谷 いづみ	日韓ユニバーサルツーリズムにおける移動困難者とサポーターによる実践報告	2024年3月	シンポジウム「アクセシビリティと“？” —生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える—	
21	高山 仁志・中鹿直樹	行動的 QOL はどの程度 Quality of Life を表現しているのか？	2023年11月	対人援助学会第15回大会、広島市	
22	辻 いずみ・中鹿直樹	理学療法士による発達支援が必要な子供への介入モデルの検討	2023年11月	対人援助学会第15回大会、広島市	
23	感應 菜摘美・中鹿直樹	若者が持つエイジズム的思考への脱フュージョンエクササイズによる介入：IRAPを用いて効果を確認することの課題と可能性	2023年9月	日本行動分析学会第41回大会、茨木市	
24	高山 仁志	飼育下のオオカミの QOL 拡大の取り組み—行動的 QOL を指標として	2023年9月	動物の行動管理学会 2023 年度大会、札幌市	坪谷 理紗・西田 雄之・小泉 まなか・井出 貴彦・棚田 麻美・町出 猛
25	古野 公紀・村上嵩至・高山 仁志・中鹿直樹	行動分析的アプローチに基づく個人に最適化された健康関連行動促進のためのフィードバック手法に関する基礎的検討	2023年9月	日本心理学会第87回大会、神戸市	
26	Ayaka,K	Older adults' social interaction changes during the COVID-19 pandemic	2023年6月14日	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, Yokohama, Japan, (2023/06/12 ~ 2023/06/14)	Ayaka Kasuga, Saori Yasumoto, Takeshi Nakagawa, Yoshiko Ishioka, Akari Kikuchi, Hiroki Inagaki, Madoka Ogawa, Noriko

					Hori, Yukie Masui, Hwang Choe, Hiroyuki Muto, Mai Kabayama, Kayo Godai, Kazunori Ikebe, Kei Kamide, Tatsuro Ishizaki, Yasuyuki Gondo
27	連 傑壽,孫 怡, 矢藤 優子	12ヵ月齢児の養育者の養育態度と被養育体験 —行動観察・質問紙調査・生理指標を用いた分析—	2024年3月6日	日本発達心理学会,日本発達心理学会第35回大会, 大阪国際交流センター	肥後 克己
28	連 傑壽,孫 怡, 木村 駿斗,矢藤 優子	育児中の母親における抑うつ要因の検討	2024年3月6日	日本発達心理学会,日本発達心理学会第35回大会, 大阪国際交流センター	小林 藍
29	木村 駿斗,連 傑壽,孫 怡,矢藤 優子	産後1年間における母親のQOLの変容過程 —「いばらきコホート」による縦断調査の結果から—	2024年3月6日	日本発達心理学会,日本発達心理学会第35回大会, 大阪国際交流センター	小林 藍
30	矢藤 優子,	幼児の向社会的行動に後続する保育者の声かけの特徴	2023年9月17日	日本心理学会第87回大会, 神戸国際会議場・神戸国際展示場	李 星鎬, 鶴原 美佑
31	矢藤 優子	母親が6ヵ月齢に用いる対乳児語の分析	2023年9月17日	日本心理学会第87回大会, 神戸国際会議場・神戸国際展示場	李 星鎬, 鶴原 美佑
32	木村 駿斗,連 傑壽,孫 怡,小林 藍,矢藤 優子	母親のQOLへの新型コロナ禍の影響 産後3ヵ月, 6ヵ月, 12ヵ月の3時点におけるコロナ禍前後の比較分析	2023年9月17日	日本心理学会, 日本心理学会第87回大会, 神戸国際会議場・神戸国際展示場	
33	矢藤 優子	Postpartum Childcare and Work Support for Asian Women in a Society with Declining Birthrates	2023年08月17日 ~ 2023年08月19日	The Korean Psychological Association, Trinational Symposium on Psychological Exploration to Rebuild Continuity and Connection in Life, Suwon convention center	
34	連 傑壽	母系家族における子どもと異なる養育者との関わり—遊び課題に基づく会話分析—	2023年9月17日	日本心理学会, 日本心理学会第87回大会, 神戸国際会議場・神戸国際展示場	王 ギョク,独玛拉姆
35	サトウタツヤ	震災復興支援におけるボランティア活動の長期継続方法とは	2023年6月	第2回TEAと質的探究学会	秋口 楓
36	山浦 一保	A contactless measurement of mind activity during conversation using video analysis	2024年1月7日	IEEE The 42nd International Conference on Consumer Electronics (ICCE 2024), Las Vegas, NY, USA (2024/01/05 ~ 2024/01/08)	共同
37	山浦 一保	Study of the Psychological Process during the Anterior Cruciate Ligament Injury using the Trajectory Equifinality Approach (TEA)	2023年7月	European College of Sport Science (ECSS), Paris, France (2023/07/04 ~ 2023/07/07)	Yamakawa, R., Sakaue, Y., Yamaura, K., Okada, S., Shiozawa, N.
38	山口 洋典	能登地震における在留外国人の被災地ボランティア	2024年2月	国際ボランティア学会第25回大会, 東京外国語大学	宗田 勝也
39	鈴木 華子	Decolonizing methodologies: Understanding SEL research and practices in China, Japan, and South Korea.	2023年11月	World Education Research Association Focal Meeting, シンガポール	Park, C. M., Suzuki, H., Kanzaki, M., Qi, X., Shin, T. S., Oh, E., & Solberg, V. S.
40	鈴木 華子	Multicultural issues and training in counseling education in Japan	2023年10月	The 2023 Annual Conference of the Asia-Pacific Association for Teacher Education, 台北, 台湾	Suzuki, H.
41	鈴木 華子	Indigenizing psychology: Disrupting settler-colonial ideologies of	2023年9月	日本心理学会第87回大会, 神戸市, 日本 (2023/09/15-09/17)	Waikaremoana Waitoki・鈴木 華子

		sameness			
42	鈴木 華子	Psychology's path forward: Trauma-informed and culturally attuned care	2023年9月	日本心理学会第87回大会,神戸市,日本(2023/09/15-09/17)	Thema Bryant・鈴木 華子
43	鈴木 華子	世界の心理学会の動向:グローバルネットワーク拡充に向けて	2023年9月	日本心理学会第87回大会,神戸市,日本(2023/09/15-09/17)	日本心理学会国際委員会・佐藤隆夫・サトウタツヤ・尾崎 由佳・鈴木 華子・家島明彦
44	鈴木 華子	多様性を心に留めた研究や実践を考える	2023年9月	日本心理学会第87回大会,神戸市,日本(2023/09/15-09/17)	鈴木 華子・植松 晃子・大山 潤爾・飯田敏晴・鈴木 美枝子・竹澤 智美
45	鈴木 華子	「多様性を尊重する」行動とは何か	2023年9月	日本行動分析学会第41回年次大会,立命館大学大阪いばらきキャンパス(2023/09/01-09/03)	武藤 崇・鈴木 華子・佐々木 銀河・村井佳比子・下山 真衣
46	和田 有史	絵文字と形で食味を伝える	2023年11月26日	日本官能評価学会 2023年大会,東京農業大学 世田谷キャンパス	
47	和田 有史	高速逐次視覚提示を用いたテキスト方位弁別感度の眼間差	2023年10月27日	視覚科学フォーラム,沖縄科学技術大学院大学(OISTカンファレンス・センター)(2023/10/26 ~ 2023/10/27)	竹林 ひかり・和田 有史
48	和田 有史	呼吸と認知	2023年9月17日	日本心理学会第87回大会,神戸市,日本(2023/09/15-09/17)	本間 元康,政岡 ゆり,和田 有史,水原 啓太
49	和田 有史	動物性および植物性食品の喫食による満足感の検討	2023年9月17日	日本心理学会第87回大会,神戸市,日本(2023/09/15-09/17)	西田 勇樹,櫻井 美穂,石川 俊士,富研一,平垣内 一子,齋藤 努,佐藤 亮太郎,和田 有史
50	和田 有史	食堂の絵画は高齢者の食事摂取量に影響を及ぼすか?	2023年9月3日	第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会,日本摂食嚥下リハビリテーション学会,横浜市	木村 敦,山口 浩平,和田 有史,松田結花子,相ヶ瀬 雅之,小林 奈津美,玉木香菜,玉木 一弘
51	和田 有史	植物性食品のおいしさに関する客観的評価系の構築—動物性コンソメに共通する風味特性に着目した検討—	2023年5月27日	日本家政学会第75回大会,日本家政学会,東京家政大学板橋キャンパス(2023/05/26 ~ 2023/05/28)	平垣内 一子,佐藤 亮太郎,富 研一,齋藤 努,西田 勇樹,和田 有史
52	Hamada, T., Otsu, K., Hayashi, Y.	Behavioral characteristics in general trust: an exploratory laboratory-based analysis using the ultimatum game	2023年9月	Proceedings of the 44th Annual Meeting of the Cognitive Science Society (CogSci 2023), シドニー(オーストラリア)	
53	濱田 大佐・大津 耕陽・林 勇吾	一般的信頼における行動特性の探索的検討:最後通牒ゲームを用いて	2023年9月	日本心理学会第87回大会,神戸	
54	堀野 康輔, 林 勇吾	VR環境でのスピーチ練習がプレゼンテーション本番前に与える影響:心拍変動と状態不安尺度に着目した実験的検討	2023年9月	日本認知科学会第40回大会,函館	
55	星野 祐司	分散分析における固定効果の制約方法がベイズファクターの推定に及ぼす影響	2023年9月	日本心理学会第87回大会	
56	大津 耕陽	思い出カードを用いたロボットによる回想支援-高齢者施設での対話と検証の過程に着目した分析-	2024年3月	HAIシンポジウム2024,静岡県・静岡大学	泉 朋子
57	大津 耕陽	ユーザとの思い出を振り返る日用品エージェントが親近感に与える影響の調査	2023年5月	第203回ヒューマンコンピュータインタラクション研究会,東京都・東京大学	泉 朋子
58	大津 耕陽	Interactive Handwriting Device for Enhancing Active Recollection of Character Forms by Voice Assistance for Chinese Character Learning	2023年4月	the International SIGCHI Conference Extended Abstracts on Human Factors in Computing Systems, Hamburg, Germany	泉朋子

59	泉 朋子	対話意欲向上を目的としたロボットとのキャッチボールにおける会話の円滑さと楽しさの効果検証	2024年3月	第19回日本感性工学会春季大会, 福岡県・九州大学	香月 瑠人, 安藤 雅行, 大津 耕陽
60	泉 朋子	笑い声マップ: 楽しい思い出の想起支援のための笑い体験の提示が気分を与える影響の検証	2024年3月	第19回日本感性工学会春季大会, 福岡県・九州大学	信 貴雅, 安藤 雅行, 大津 耕陽
61	泉 朋子	場所に関連したモノとの対話を介して訪問者の体験情報を共有する旅ノートシステム	2024年3月	第19回日本感性工学会春季大会, 福岡県・九州大学	楠井 貞仁, 安藤 雅行, 大津 耕陽
62	泉 朋子	Laughter Map: Supporting System for Recalling Pleasant Memories Based on the Recording and Visualization of Laughter Experiences	2023年7月	the 25th International Conference on Human-Computer Interaction, Copenhagen, Denmark	信 貴雅, 安藤 雅行, 大津 耕陽
63	泉 朋子	Introducing Playing Catch to Motivate Interaction with Communication Robots	2023年7月	the 25th International Conference on Human-Computer Interaction, Copenhagen, Denmark	香月 瑠人, 安藤 雅行, 大津 耕陽
64	泉 朋子	キャッチボールの導入がコミュニケーションロボットとの対話意欲に与える影響の検証	2023年5月	第200回ヒューマンインタフェース学会研究会, 沖縄県・沖縄産業支援センター	香月 瑠人, 安藤 雅行, 大津 耕陽
65	泉 朋子	笑い声マップ: 楽しい思い出の想起支援のための笑い体験の記録と提示法の検討	2023年5月	第200回ヒューマンインタフェース学会研究会, 沖縄県・沖縄産業支援センター	信 貴雅, 安藤 雅行, 大津 耕陽
66	安藤 雅行	思い出の情景を表す画像生成とインタラクティブな修正による思い出想起支援	2023年9月	ヒューマンインタフェースシンポジウム2023, 神奈川県・青山学院大学	大津 耕陽, 泉 朋子
67	安藤 雅行	The Impact of Parent-like Chatbot Narratives on Daily Reflection	2023年7月	the 25th International Conference on Human-Computer Interaction, Copenhagen, Denmark	大津 耕陽, 泉 朋子
68	西原 陽子	登場人物関係の可視化による小説の出来事の想起支援	2023年9月	第22回情報科学技術フォーラム, 大阪府・大阪公立大学	藤島 光佑, SHAN Junjie
69	西原 陽子	ユーザの読書興味を引き起こす読書支援インタフェース	2023年9月	第22回情報科学技術フォーラム, 大阪府・大阪公立大学	遠山 弘也, SHAN Junjie
70	西原 陽子	Comparative Evaluation of User Interfaces for Preventing Wasteful Spending in Cashless Payment	2023年7月	the 25th International Conference on Human-Computer Interaction, Copenhagen, Denmark	間城 大輔, SHAN Junjie
71	谷 晋二	"ブラグマティックに哲学する: ハートフルな臨床コンピューテンシーを求めて"	2024年3月	"ACT Japan 年次ミーティング2023(大阪 追手門学院大学)	話題提供: 谷 晋二(立命館大学), 岡本利子(嶺南こころの病院), 本田 陽彦(九州大学) 指定討論: 久留宮 由貴江(The Chicago School)"
72	谷 晋二	"哲学—理論—実践のつながりを考える: ACTをどう学ぶか"	2024年3月	"ACT Japan 年次ミーティング2023(大阪 追手門学院大学)	司会: 嶋 大樹(追手門学院大学) 話題提供: 谷 晋二(立命館大学), 酒井美枝(名古屋市立大学) 代表質問: 姜来娜(早稲田大学), 稲垣 佑(一般社団法人 パーマネント・クリエイティブ・マインド)"
73	"Christina R. Miller, and Shinji Tani.	"Collaborative International Education Exchange During a Global Pandemic: Perspectives from the US and Japan	2024年1月	The IAFOR Hawaiian Conference Series 2024(Honolulu)	

74	Shinji Tani, Michiko Sawano, PhD, and Xue Dou,	Educating Students with Disabilities and Their Families to Prepare for Disaste	2024年1月	"The IAFOR Hawaiiian Conference Series 2024(Honolulu)"	
75	Black, Cassidy*, Presti*, Tani	"ACT for kids: Taking into account developmental process and social context in a CBS perspective"	2023年7月	"ACBS World Conference, Nicosia,Cyprus (Nicosia, Cyprus)"	
76	香月 みかん	自閉症スペクトラム児の多 様性と自主性を尊重した療 育プログラムの検討 (27) —ASD 児ときょうだい児の 自己像の違いに着目して—	2023年11月	対人援助学会 第15回大会	川村 涼夏・服部 繭子・西尾 綾華・金 谷伶菜・藤本 和希・肩野 礼華・荒木 穂積・竹内 謙彰・佐野 さやか・矢藤 優子
77	近江 涼音	自閉症スペクトラム児の多 様性と自主性を尊重した療 育プログラムの検討 (26) —文脈を踏まえた応援行動 に注目して—	2023年11月	対人援助学会 第15回大会	小林 藍・向井 直史・柳井 有加里・松 元 佑・荒木 穂積・竹内 謙彰・佐野さ やか・矢藤 優子
78	美馬 達哉	ポスト・トゥルースとアグロ ロジー(無知学),「今日の 思想状況としてのポスト・ト ゥルース研究とその批判的 応答」(2023年度大阪大学 学際融合を推進し社会実 装を担う次世代挑戦的研究 者育成プロジェクト共同研 究採択)	2024年2月	大阪大学吹田キャンパス	
79	Mima, T.	The Personal can be Scientific: N-of-1 approach to hyper- adaptability. The 46th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Symposium: New horizon of Hyper- Adaptability	2023年8月	Symposium: New horizon of Hyper- Adaptability 1st Aug., Sendai, Japan.	
80	橋口 哲志, 柴田 史久, 木村 朝子	VR 空間操作コマンドとし てのアイジェスチャ UI 特 性分析(6)--並列型アイジェ スチャ UI のタスク指向分 析--	2024年1月	情報処理学会第206回HCI研究会	市原 瑞士, Christian Arzate Cruz, 夏目 達也
81	松室 美紀, 柴田 史久, 木村 朝子	融合身体による二者でのア バタ操作時の身体共有の 効果	2023年11月	第14回多感覚研究会	森田 磨里絵, 藪田 颯斗, 中村 哲朗, 郷原 皓彦, 北川 智利
82	松室 美紀, 柴田 史久, 木村 朝子	融合身体を用いた他者との 身体操作	2023年11月	第14回多感覚研究会	中村 哲朗, 森田 磨里絵, 郷原 皓彦, 北川 智利
83	柴田 史久, 木村 朝子	VR 空間内操作コマンドに おけるフットジェスチャの UI 特性分析 (2) --立位・ 座位体験での比較--	2023年9月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2023	樋口 雄大, 浦野 雅也
84	柴田 史久, 木村 朝子	VR 空間操作コマンドとし てのアイジェスチャ UI 特 性分析 (5) --タスク指向で の直列型アイジェスチャ UI 特性分析--	2023年9月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2023	市原 瑞士, Christian Arzate Cruz, 夏目 達也
85	松室 美紀, 橋口 哲志, 柴田 史 久, 木村 朝子	Hot-Cold Confusion に おける各温度の知覚分布 に関する分析	2023年9月	第28回日本バーチャルリアリティ学会 大会	羽田野 将大, 辻 勇太
86	松室 美紀, 柴田 史久, 木村 朝子	身体の表示位置が身体表 象に与える影響の分析～	2023年9月	日本認知科学会第40回大会	松下 彩夏, 江波戸 傑, 小林 晶

		四肢間での位置知覚の転移の検討～			
87	M.Matsumuro, F. Shibata, and A. Kimura	Interlimb Transfer of Proprioceptive Recalibration and Effect of Body Posture	2023年7月	the Annual Meeting of the Cognitive Science Society 2023	Hikari Kobayashi, Takeru Ebato, Ayaka Matsushita
88	M.Matsumuro, F. Shibata, and A. Kimura	Real-time co-embodiment of a virtual avatar improves movement performance	2023年6月	Proc. the 21st International Multisensory Research Forum (IMRF2023),	Marie Morita, Tetsuro Nakamura, Akihiko Gobara, Norimichi Kitagawa
89	齋藤 真緒	「ヤングケアラー支援の課題と展望」分科会 児童家庭支援センターやNPO等によるヤングケアラー支援の困難性と可能性	2023年11月	日本子ども虐待防止学会 第29回学術集会滋賀大会(立命館大学 BKC キャンパス)	
90	齋藤 真緒	『「ヤングケアラー」問題の社会的構築のゆくえーケアラー支援の射程と課題ー』	2023年11月	第46回唯物論研究会大会(立命館大学 BKC キャンパス)	
91	Mao Saito, Yu Kasai, Yuki Kameyama,	Public interest in Young Carers in Japan: Issues of support for carers in the Familialistic Welfare Regime,	2023年6月	6th Transforming Care Conference, Sheffield University	
92	亀山 裕樹	ケアを担う子どもの貧困の経験	2023年11月	日本子ども虐待防止学会 第29回学術集会滋賀大会(立命館大学 BKC キャンパス)	
93	河西 優	18歳以降の若者ケアラーの実態把握と移行期を支える社会資源の開発に向けて	2023年11月	日本子ども虐待防止学会 第29回学術集会滋賀大会(立命館大学 BKC キャンパス)	
94	徳竹 彩香	離家をめぐると子ども・若者ケアラーの困難	2023年11月	日本子ども虐待防止学会 第29回学術集会滋賀大会(立命館大学 BKC キャンパス)	
95	湯谷 菜王子	フェミニズムから考える家族支援のあり方	2023年11月	日本子ども虐待防止学会 第29回学術集会滋賀大会(立命館大学 BKC キャンパス)	
96	村本 邦子	多様で持続可能な対人援助に必要な「知」に関する一考察	2023年11月11日	対人援助学会第15回大会, 比治山大学, 広島市(2023/11/11 ~ 2023/11/12)	
97	村本 邦子	土着心理学とその展開	2023年11月5日	日本質的心理学会第20回大会, 日本質的心理学会, 立命館大学	
98	村本 邦子	「土地の力」を描き出すー映画によるビジュアル・エスノグラフィー	2023年11月4日	日本質的心理学会第20回大会, 日本質的心理学会, 立命館大学	
99	村本 邦子	心理学者はコロナとどう向き合うか? パート2	2023年9月15日	日本心理学会第87回大会, 神戸国際会議場(オンライン)	
100	安田 裕子	食肉目の捕殺に反対する個人は村の中で捕殺反対の規範を普及する始点となりうるか?ーバングラデシュ北東部のスナドリネコ保全の事例	2023年12月2日	「野生生物と社会」学会第28回大会・つくば大会, 「野生生物と社会」学会, 筑波大学筑波キャンパス(2023/12/01 ~ 2023/12/03)	鈴木愛・安田裕子・桜井良
101	安田 裕子	子育て環境としての日本・アジアのイメージー育児期女性の語りから	2023年11月5日	日本質的心理学会第20回大会, 日本質的心理学会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス(2023/11/04 ~ 2023/11/05)	三品拓人・鶴原美佑・小林藍・安田裕子
102	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ(TEA)における分岐点概念の再考	2023年11月4日	日本質的心理学会第20回大会, 日本質的心理学会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス(2023/11/04 ~ 2023/11/05)	小山多三代・土元哲平・安田裕子
103	安田 裕子	TEA 活用による顧客インサイト抽出の可能性	2023年10月29日	日本マーケティング学会第12回マーケティングカンファレンス2023, 日本マーケティング学会, 法政大学市ヶ谷キャンパス	小菅竜介・安田裕子・高橋歩

104	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA)―基礎編	2023年9月15日	日本心理学会第87回大会, 日本心理学会, 神戸国際会議場・神戸国際展示場(2023/09/15 ~ 2023/09/17)	安田裕子・サトウタツヤ
105	安田 裕子	ハイリスク・ストーカーへの法と臨床―新たな視点の展開	2023年9月	日本犯罪心理学会第61回大会, 日本犯罪心理学会, お茶の水大学(オンライン開催・2023/09/23 ~ 2023/09/24)	廣井亮一・城下裕二・後藤弘子・丸山泰弘・中村正・安田裕子・指宿信
106	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA)―応用編	2023年9月	日本心理学会第87回大会, 日本心理学会, 神戸国際会議場・神戸国際展示場(オンデマンド・2023/09/15 ~ 2023/09/17)	サトウタツヤ・安田裕子
107	安田 裕子	TEA のいろは―TEM の基礎を学ぼう	2023年6月11日	TEAと質的探究学会第2回大会, TEAと質的探究学会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス(オンライン・2023/06/10 ~ 2023/06/11)	
108	安田 裕子	シンガポール日本語教師会でのTEA講習会―参加者・講習実施者それぞれの視点から	2023年6月11日	TEAと質的探究学会第2回大会, TEAと質的探究学会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス(オンライン・2023/06/10 ~ 2023/06/11)ポスター発表	中田友貴・ウォーカー泉・安田裕子・サトウタツヤ
109	安田 裕子	脳卒中後遺症者の長期的療養生活の変容プロセスとその支援―「手紙を書く」行為による内省を踏まえて	2023年6月11日	TEAと質的探究学会第2回大会, TEAと質的探究学会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス(オンライン・2023/06/10 ~ 2023/06/11)ポスター発表	横山直子・安田裕子
110	安田 裕子	オンラインコメントセッション Group3	2023年6月10日	TEAと質的探究学会第2回大会, TEAと質的探究学会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス(オンライン・2023/06/10 ~ 2023/06/11)	
111	増田 梨花	発達障がい当事者である対人援助職従事者の就労継続要因の検討 I - 青年期以降の当事者へのインタビュー調査からの一考察	2023年9月17日	ピア・サポート学会 第21回研究大会・総会, 新島学園短期大学(群馬県)(2023/09/17 ~ 2023/09/18)	
112	増田 梨花	児童養護施設における職員を対象にした絵本の読み合わせの効果-ピア・サポートの視点からの一考察-	2023年9月17-18日	ピア・サポート学会 第21回研究大会・総会, 新島学園短期大学(群馬県)(2023/09/17 ~ 2023/09/18)	
113	増田 梨花	自主シンポ「筋萎縮性側索硬化症の家族支援」	2023年9月3日	日本心理臨床学会第42回大会, 日本心理臨床学会(横浜)	
114	森久 智江	犯罪原因としての社会課題対応を志向するオーストラリアの刑事司法	2024年3月16日	刑事立法研究会	
115	森久 智江	オーストラリア北部準州(Northern Territory: NT)調査前提報告	2023年12月17日	刑事立法研究会社会内処遇班研究会	
116	森久 智江	刑事司法における福祉的支援の本質的意義	2023年12月16日	刑事立法研究会	
117	森久 智江	『住まう』を支えるということと刑事政策	2023年12月2日	日本更生保護学会第12回大会 シンポジウム, 日本更生保護学会	
118	森久 智江	これまでのヒアリング調査及びその他活動のまとめと出版企画について	2023年11月11日	刑事立法研究会社会内処遇班研究会	
119	森久 智江	再犯防止推進計画のこれから―その評価と展望	2023年6月4日	刑法学会第101回大会ワークショップ12「再犯防止推進計画」, 日本刑法学会, 早稲田大学	正木祐史・水藤昌彦・荻野太司・森久智江
120	柏木 智子	グローバル時代における校長のリーダーシップ研究に関する考察―International Successful School Principals Project に焦点をあてて	2023年10月15日	日本教育行政学会第58回大会自由研究発表, 日本教育行政学会, 千葉大学	佐藤博志, 柏木智子, 西野倫世, 小野まどか

121	柏木 智子	「個別最適な学び」と義務教育一審議会等での論点と課題	2023年7月9日	日本教育政策学会第30回大会課題研究, 日本教育政策学会, 鹿児島大学	
122	柏木 智子	社会情動的能力の育成に関する国際比較研究—政策文書等の分析を中心に	2023年7月8日	日本カリキュラム学会第34回大会自由研究発表, 日本カリキュラム学会, 大阪教育大学	佐藤博志、本所恵、西野倫世、小野まどか、吉川麻紘
123	柏木 智子	社会情動的能力の育成を促進する学校マネジメントに関する研究	2023年6月3日	日本教育経営学会第63回大会自由研究発表, 日本教育経営学会 (2023/06/02 ~ 2023/06/04)	共同発表

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第三回「医師早川一光を語る会」	衣笠キャンパス	2023年5月	300名	地域健康社会学研究センター主催 立命館大学人間科学研究共催
2	ACEを経験した子どもの理解とアドボカシー～児童福祉におけるアドボカシー活動の専門性の確立にむけて～	BKCキャンパス	2023年11月	100～120名程度	日本子ども虐待防止学会第29回学術集會にて開催
3	フォスタリングソーシャルワーク企画(人間研総会)	衣笠キャンパス	2023年3月	70名	立命館大学人間科学研究共催
4	アンハラッド・ベケット招聘研究会	朱雀キャンパス	2023年11月	20名	生存学研究所主催、人間研共催
5	日本行動分析学会第41回大会 シンポジウム「実験的行動分析を未来へ繋ぐ」	大阪いばらきキャンパス	2023年9月	約100名	日本行動分析学会
6	東南アジアの心と子どもをめぐる課題	大阪いばらきキャンパス	2023年11月23日	30名	
7	The 29th International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing (CollabTech 2023)	立命館大学 OIC	2023年9月	約100名	情報処理学会, RARA
8	講座「男性介護ネットの15年を語る」と映画「認知症-愛の奇跡」の上映とトーク(監督・出演者)	本学朱雀キャンパス202号室	2024年3月9日・10日	延べ90人	男性介護者と支援者の全国ネットワーク
9	「日本版ヤングケアラーアクションデー2023 イギリスに学ぶヤングケアラー支援—当事者同士のネットワークがもつ意味」	オンライン	2024年3月	60名	
10	「当事者とともに考える子ども・若者ケアラー支援のための専門職養成講座」	立命館大学朱雀キャンパス等	2023年12月	25名	
11	「子ども・若者ケアラーの安心・安全な語りのために—ストラテジック・シェアリング講習会—」	オンライン	2023年10月	100名	
12	「YCARP2周年記念イベント 当事者を真ん中に据えた支援とは？—関西でのピアサポート活動に学ぶ—」	立命館大学朱雀キャンパス	2023年9月	60名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	早川 岳人	KBS 京都ラジオ さらピン！キョウト	KBS 京都ラジオ	毎月第四週 14:00～17:00
2	早川 岳人	公益社団法人認知症の人と家族の会 理念と未来を考える学習会	認知症の人と家族の会	2023年度 青森県支部(10月29日)鳥取支部(2月3日)、山口支部(2月11日)、岐阜支部(3月10日)
3	中村 正	NHKBS プレミアムダークサイドミステリー「児童移民」	60分番組の制作に協力。出演して解説も担当	2023年6月1日
4	大谷 いづみ	立岩真也さんと生存学のこと	『現代思想』総特集 立岩真也 1960-2023, PP.223-228	2024年2月
5	大谷 いづみ	映画 PLAN75 の「未来」避けるには—「簡単な処方箋はなくても」	年頭連載「8がけ社会」『朝日新聞』	2024年1月13日
6	大谷 いづみ・川端 美季	立命館土曜講座「障害のある先生が仕事を続けるということ—障害と教育の交わる場所」特集趣旨	立命館大学生存学研究所, 立命館生存学研究, 8号, PP.85-88	2023年8月
7	大谷 いづみ・川端 美	「障害のある教員」の職場復帰のプロセスと課題	立命館大学生存学研究所, 立命館生存学研究, 8号, PP.89-109	2023年8月

	季			
8	矢藤 優子	「マンマ」「ブーブー」...幼児語は悪しき習慣? 専門家の見解は	ラジオ関西トピックス	2024年2月29日
9	矢藤 優子	【必見】花王の感覚科学研での「赤ちゃんと育児者の笑顔の為の研究」で判明した赤ちゃんの健やかな成長に役立つ秘訣をお伝えします!	youtube 配信	2023年10月6日
10	矢藤 優子	日経STEAM2023 シンポジウム『女性研究者座談会』	日本経済新聞社, 日経STEAM2023 シンポジウム ~新しい価値創造への挑戦~, 大阪国際交流センター, 共同	2023年7月19日
11	矢藤 優子	留守児童の経験を持つ大学生の心理健康状況と問題介入	立命館大学 大阪いびらきキャンパス(司会者・コーディネーター)	2023年6月16日
12	矢藤 優子	現代中国の子育てと教育 発達心理学からみた課題と未来展望	アジア・日本研究所, ブックローンチ, Online	2023年5月31日
13	矢藤 優子	再生回数億超え“踏切アニメ” 乳幼児が夢中になるワケ 心理学者「強い存在への憧れか」	ラジオ関西トピックス	2023年5月29日
14	矢藤 優子	Longitudinal Study on Postpartum Childcare and Work Support for Asian Women in a Society with Declining Birthrates	第四届“3岁以下幼儿托育和儿童早期发展论坛”, オンライン(招待講演)	2023年5月26日
15	矢藤 優子	Longitudinal Study on Postpartum Childcare and Work Support for Asian Women in a Society with Declining Birthrates	The fourth Forum on ECEC and early childhood development, Nanning, Guangxi province/online	2023年5月26日
16	矢藤 優子	乳児が変顔をする理由について発達心理学の見地	毎日放送「よんちゃんTV」	2023年05月15日
17	矢藤 優子	幼稚園の「入園難」「入園費高騰」...対策として“中国の幼児教育”で打ち出された	幻冬舎ゴールドオンライン	2023年04月17日
18	山浦 一保	2023年度立命館大学 Creating Futures シンポジウム「わたしの挑戦」—講演「あなたらしいリーダーシップを目指して」	京都(キャンパスプラザ京都), 立命館大学男女共同参画推進リサーチライフサポート室	2024年1月25日
19	山浦 一保	廃炉措置プラント意見交換会 基調講演 個人とチームの心の理解と実践 —組織心理学からのアプローチ	一般社団法人原子力安全推進協会(JANSI)主催	2024年1月22日
20	山浦 一保	大阪府中小企業診断協会主催 「仕事と人生を飛躍させる関係性リーダーシップ」	大阪, 大阪府中小企業診断協会	2024年1月20日
21	山浦 一保	現代人とヘルスケア —組織心理学からのアプローチ	立命館大学衣笠キャンパス	2023年12月19日
22	山浦 一保	立命館大学体育会本部リーダーズキャンプ「組織心理学によるチームのトリセツ—超優良チームを目指して—」	立命館大学	2023年12月16日
23	山浦 一保	兵庫県警幹部職員講演会 関係性リーダーシップとチーム力向上について	兵庫県警察本部警務部 主催	2023年12月12日
24	山浦 一保	大津市立幼稚園保育主任会 より豊かな「チーム保育」の実現に向けて —組織心理学で考える人材育成とチームマネジメント—	大津市立幼稚園 保育主任会, 講演会	2023年11月24日
25	山浦 一保	東京海上日動メディカル株式会社主催 web セミナー 多様性の時代に求められる チームづくり、人づくり —個人の力を最大限引き出すマネジメントとは—	東京海上日動メディカル株式会社	2023年11月17日
26	山浦 一保	労務行政研究所 HR イブニングセッション 組織に渦巻く「感情」への向き合い方、組織パフォーマンスの高め方〜最新の組織心理学の研究から〜	労務行政研究所	2023年11月16日
27	山浦 一保	日本経営者協会(関西支部)主催 組織心理学—人間関係づくり・組織づくり—	日本経営者協会(関西支部)	2023年11月14日

28	山浦 一保	京都府 生涯現役クリエイティブセンター後期研修 女性活用推進コース(第2回)	立命館大学提供講座/京都府テレワーク連携センター共催	2023年10月24日
29	山浦 一保	京都府 生涯現役クリエイティブセンター後期研修 女性活用推進コース(第1回)	立命館大学提供講座/京都府テレワーク連携センター共催	2023年10月17日
30	山浦 一保	○○コラム「憧れの日本代表 体張る」～多国籍の「侍」、ビジョン共有:言葉の力で桜戦士団結	日本経済新聞 31面	2023年10月9日
31	山浦 一保	立命館大学 稲盛経営哲学研究センター・日経ビジネススクール主催「組織心理学でみるリーダーシップの神髄 一厄介な“ひと、こと”が自分や組織の力に変わる」	立命館大学 稲盛経営哲学研究センター、日経ビジネススクール	2023年10月5日
32	山浦 一保	立命館宇治高等学校 2023 模擬講義「強いチームのつくり方 ーリーダーとメンバーが意識することー」	2023年度 立命館宇治高校 F-21 キャリアナビ2 @BKC(スポ健)模擬講義	2023年9月27日
33	山浦 一保	株式会社 リコー 講演会「飲み合える人間関係とコミュニケーション」ー組織心理学からのメッセージー	株式会社 リコー講演会	2023年8月31日
34	堀江 未来	学びの連続体へのまなざし～生成系AIへの耐性・代替不可能性を求めて～	2023年度第29回FDフォーラム, 大学コンソーシアム京都,京都市,(2023/02/23～2023/02/24)	2024年2月23日
35	堀江 未来	OECD Education 2030 から考える学校教育の未来ーエージェンシーを育てるために私たちがができることー	第7回 立命館大学実践教育学会 研究大会, 立命館大学実践教育学会,京都市,(2023/10/15)	2023年10月25日
36	堀江 未来	国際教育のプロのネットワークの再構築を	国際教育夏期研究大会, 国際教育研究コンソーシアム,仙台市(東北大学),(2023/07/20～2023/07/21)	2023年7月20日
37	山口 洋典	「探究人」:被災者に「伝わる」支援とは神戸原点「細くとも長く、一緒に」	京都新聞 教育面(10面) 2024年3月24日付	2024年3月
38	鈴木 華子	多文化カウンセリングの視点から見る留学生支援～コミュニティと予防～	令和5年度九州大学留学生センターFD 研修会,九州大学留学生センター,福岡市	2024年1月24日
39	鈴木 華子	Using community perspectives to promote well-being for international students	同志社女子大学現代社会学部,京都市	2023年12月13日
40	鈴木 華子	心理学における多様性尊重のガイドライン	令和5年度第3回全体研修会「多様性と心理臨床」,一般社団法人神奈川県臨床心理士会	2023年11月12日
41	鈴木 華子	Well-beingの実現に向けたスポーツ健康科学	立命館大学スポーツ健康科学総合研究所 設立記念シンポジウム,びわこくさつキャンパス,草津市	2023年6月23日
42	鈴木 華子	Cultural translation of social and emotional learning	University of Santo Tomas (Santo Tomas, Philippines)	2023年5月26日
43	津止正敏・手島洋・大原ゆい	ケアメンをサポートー高知県の男性ケアラーの現状と支援を考える	こうち男女共同参画センター	2024年2月17日
44	泉 朋子	招待講演「心の豊かさに寄与するシステムの実現を目指してー思い出工学からのアプローチー」	三菱電機	2024年2月
45	泉 朋子	記事「日常動作でフレイルを防げ」	日本経済新聞 計1回掲載	2022年10月～
46	木村 朝子	講演	JST「戦略目標(人間理解とインタラクションの共進化)検討のためのワークショップ」,オンライン	2024年12月15日
47	木村 朝子	講演	情報処理学会セミナー, オンライン	2024年12月5日
48	木村 朝子	講演	電子情報技術産業協会(JEITA)技術戦略部会,オンライン	2024年8月31日
49	木村 朝子	講演	総務省近畿総合通信局,	2024年4月13日
50	斎藤 真緒 Ycarp	「ドキュメンタリー ヤングケアラー 届かない声に心を寄せて」(2023年11月24日)	NHKBS1	2023年11月24日
51	安田 裕子	文化心理学から生まれた現象や経験のプロセスをとらえる質的研究手法 複線経路等至性アプローチ(TEA)の	オンライン開催、一般社団法人日本地域看護学会 2023年度研究活動推進委員会主催研究セミナー	2024年3月9日

		理論と実際を学ぶ		
52	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (TEA) の概説	大阪経済大学A館(70周年記念館 プレアホール)、日本福祉大学質的研究会研修会	2024年3月2日
53	安田 裕子	質的研究法「複線径路等至性アプローチ (TEA)」	上智大学四谷キャンパス、上智大学 看護学専攻 FD 研修会	2024年2月28日
54	安田 裕子	『はじめて学ぶ 現場・当事者理解のための質的研究』	オンライン開催、心理職支援団体 MOSS 主催ワークショップ型セミナー	2023年9月24日
55	安田 裕子	『はじめて学ぶ 現場・当事者理解のための質的研究』	オンライン開催、心理職支援団体 MOSS 主催ワークショップ型セミナー	2023年9月10日
56	安田 裕子	「人生の意味」ー人生の物語(ライフストーリー)の観点から	立命館大学(オンライン開催)、R-GIRO 記号創発システム論研究会「人生の意味」	2023年7月28日
57	増田 梨花	ピクチャーブックヒーリング(被災地支援イベント)	文京学院大学本郷キャンパス 仁愛ホール	2024年3月16日
58	増田 梨花	日本ピア・サポート学会オンライン交流会	オンライン	2024年3月10日
59	増田 梨花	絵本と童謡のコラボレーションイベント	金沢文化振興財団 金沢蓄音器館	2024年3月9日
60	増田 梨花	立命館小学校教員研修 講師、ピア・サポート研修2 SEL 教育の理論と実践	京都市, 立命館小学校	2024年2月15日
61	増田 梨花	ブロッサムセミナー イン東京	文京区大原地域活動センター	2024年2月3日
62	増田 梨花	海外における SEAL 教育	文京学院大学付属幼稚園教育研修会、文京学院大学付属幼稚園	2023年12月23日
63	増田 梨花	ブロッサムセミナー イン東京	文京区大原地域活動センター	2023年12月17日
64	増田 梨花	絵本と音楽のコラボレーションイベント	神保町 シュガー	2023年12月14日
65	増田 梨花	立命館小学校教員研修 講師 ピア・サポート研修1,ピア・サポート概論	京都市, 立命館小学校	2023年12月6日
66	増田 梨花	絵本と蓄音器のコラボレーションイベント	金沢文化振興財団 金沢蓄音器館	2023年11月12日
67	増田 梨花	絵本と音楽を活用したコミュニケーション	石川県肢体不自由児協会 ひとみキラキラこころポカポカ絵本教室, 石川県養護学校	2023年11月12日
68	増田 梨花	わたせせいぞろい イメージの世界を広げるワークショップ	大阪茨木市 立命館大学(OIC)	2023年11月4日
69	増田 梨花	ブロッサムセミナー イン東京	文京区大原地域活動センター	2023年10月21日
70	増田 梨花	イラストを心理学的視点から読み解く	東日本復興支援活動 シンポジウム, 宮城県石巻市	2023年10月15日
71	増田 梨花	ピクチャーブックヒーリング 被災地チャリティーイベント	宮城県石巻市 まるほんマキアールテラスホール	2023年10月15日
72	増田 梨花	精神障害者施設慰問 ピクチャーブックヒーリングイベント	宮城県石巻市	2023年10月14日
73	増田 梨花	石川県肢体不自由児協会 パチパチ絵本教室	石川県金沢市富樫教育センター	2023年10月9日
74	増田 梨花	ブロッサムセミナー イン東京	文京区大原地域活動センター	2023年8月26日
75	増田 梨花	ピア・サポート トレーニング	日本ピア・サポート学会 京都支部, 大阪茨木市立命館大学(OIC)	2023年7月30日
76	増田 梨花	絵本と音楽のコラボレーション 夏	金沢市, 金沢蓄音器館	2023年7月29日
77	増田 梨花	絵本と音楽を活用した SEAL 教育	石川県野々市市家庭教育講演会, 野々市市教育委員会生涯学習課	2023年7月29日
78	増田 梨花	ピア・サポート概論	自由の森学園	2023年7月15日
79	増田 梨花	ブロッサムセミナー イン東京	文京区大原地域活動センター	2023年6月18日
80	増田 梨花	ブロッサムセミナー イン京都	大阪茨木市 立命館大学(OIC)	2023年5月28日
81	増田 梨花	ピア・サポート概論	日本ピア・サポート学会 東海地区研修会	2023年5月13日
82	増田 梨花	絵本と音楽のコラボレーション 春	金沢市, 金沢蓄音器館	2023年4月29日
83	増田 梨花	絵本と音楽を活用したコミュニケーション	日本貿易保険 (NEXI), 東京都千代田区	2023年4月25日

		ン		
84	増田 梨花	ブロッサムセミナー イン東京	文京区大原地域活動センター	2023年4月23日
85	森久 智江	『非行少年に対するトラウマインフォームドケア: 修復的司法の理論と実践』出版記念トークイベント&参加者の対話サークル (共同: 野坂祐子・森久智江・藤岡淳子)	明石書店	2024年3月30日
86	森久 智江	京アニ放火殺人、青葉被告の再犯防止支援は「やれることはやっていた」のに、なぜ防げなかった? 犯罪学の研究者が語る「刑務所の実情」	インターネット Yahoo!JAPAN ニュース掲載	2024年2月15日
87	森久 智江	演習1「刑事司法に関する基礎知識について」	令和5年度地域生活定着支援人材養成研修 テーマ別研修2023年、全国地域生活定着支援センター協議会/厚生労働省	2024年2月13日
88	森久 智江	非行・犯罪をした人の地域生活支援とネットワーク (共同: 林明奈・森久智江・水藤昌彦)	非行・犯罪に至った知的障害者を支援し続ける人のための研修会2023(実践者研修会), 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のみみの園	2024年2月13日
89	森久 智江	組織マネジメント 演習 (共同: 森久智江・大平眞太郎・島村聡)	令和5年度地域生活定着支援人材養成研修 管理職員研修2023年、全国地域生活定着支援センター協議会/厚生労働省	2024年2月1日
90	森久 智江	事例を通じた支援手法の理解 地域における支援ネットワークの構築等演習	令和5年度地域生活定着支援人材養成研修 管理職員研修2023年、全国地域生活定着支援センター協議会/厚生労働省	2024年1月29日
91	森久 智江	専門科目1「刑事司法に関する基礎知識について」	令和5年度地域生活定着支援人材養成研修 テーマ別研修2023年、全国地域生活定着支援センター協議会/厚生労働省	2024年1月
92	森久 智江	地域生活定着促進事業に関する基礎知識①「刑事司法」	令和5年度地域生活定着支援人材養成研修 初任職員研修2023年、全国地域生活定着支援センター協議会/厚生労働省	2023年11月30日
93	森久 智江	解決を目指さない対話から始めよう— Restorative Justice の視点—	令和5年度第3回福岡県人権教育研修会, 福岡県教育委員会, 福岡市	2023年11月17日
94	森久 智江	警察の留置施設「プラトップ」容認広がる 京都に続き滋賀「理解得られぬ」批判ネットで可視化	京都新聞 掲載	2023年11月7日
95	森久 智江	刑罰って何を解決しているの?— 刑罰制度改革を Restorative Justice: RJ(修復的司法)のレンズで見える	土曜講座「法と人間科学の最前線から」, 立命館大学人間科学研究所, 京都市	2023年11月4日
96	森久 智江	地域生活定着促進事業に関する基礎知識①「刑事司法」	令和5年度地域生活定着支援人材養成研修 初任職員研修2023年、全国地域生活定着支援センター協議会/厚生労働省(2023/11/01 ~ 2023/11/20)	2023年11月
97	森久 智江	留置場でプラトップ禁止 弁護士抗議	京都新聞 掲載	2023年10月27日
98	森久 智江	『犯罪』って何だろう? ~ 犯罪現象を犯罪学というレンズで見える	地方創生・再犯防止担当者研修, 法務省大阪矯正管区更生支援企画課, 大阪市	2023年9月7日
99	森久 智江	障がいのある人と刑事司法	福岡市立特別支援学校博多高等学園研修, 福岡市立特別支援学校博多高等学園, 福岡市	2023年8月29日
100	森久 智江	「再犯防止」とは?— 犯罪学の視点から	神戸市再犯防止推進研修, 神戸市	2023年7月28日
101	森久 智江	非行問題の理解と対応~少年法って何のためにあるの?	高槻市生徒指導担当者研修会, 高槻市教育委員会, 高槻市	2023年7月26日
102	森久 智江	言葉で自分守れず「供述弱者」支える仕組みを	朝日新聞 夕刊掲載	2023年4月7日
103	森久 智江	令和5年度「被疑者等支援業務追加マニュアル」講師(監修)	一般社団法人よりそいネットおおさか	2023年4月
104	柏木 智子	子どもの貧困とケアする学校・地域づくり— 事務職員の役割—	豊岡市小中学校事務研究会, 兵庫県豊岡市	2024年2月16日
105	柏木 智子	困難を抱える子どもと「ケアする学校」— 子どもの人権・尊厳の保障に向き合う社会づくりへ	科学研究費「尊厳概念のアクチュアリティ」尊厳学C1班 第2回ワークショップ	2024年1月25日
106	柏木 智子	「キミの過去はキミの未来を決めない」~ 知る見る変える子どもの貧困 今私	第53回憲法と人権を考える集い, 京都弁護士会, 京都市	2024年1月21日

		たちにできること		
107	柏木 智子	学習支援とケア	さいたまユースサポートネット, 埼玉県	2023年12月18日
108	柏木 智子	子どもの貧困と「ケアする学校」づくり(オンライン)	人権研修講座, 寝屋川市教育委員会, オンライン	2023年11月16日
109	柏木 智子	「ケアする学校」一互いに支え合う関係を重視した学校づくりをめざして	京都市教育委員会人権教育講座, 京都市教育委員会, 京都市	2023年11月
110	柏木 智子	子どもの貧困と「ケアする学校」づくり(大阪)	全国高等学校教頭・副校長会近畿地区連絡協議会, 全国高等学校教頭・副校長会, 大阪	2023年10月27日
111	柏木 智子	子どもの貧困と「ケアする学校」づくり	京都市弁護士会学習会, 京都市弁護士会	2023年7月27日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	Fujimoto, K.	Society for Applied Research in Memory and Cognition (SARMAC) XIV 2023, Nagoya.	The Japanese Student Paper Awards	Impact of the cognition of lying on verbal deception strategies.	2023年8月
2	廣田 貴也・若林 宏輔	第24回法と心理学会大会(於 静岡大学)	大会発表賞	想像による被供述者との親密性の違いが日本版司法取引の意思決定に与える影響	2023年12月
3	矢藤 優子	公益社団法人日本心理学会	公益社団法人日本心理学会学術大会優秀発表賞	脳損傷患者の立方体透視図模写の描き順分析	2024年1月18日
4	大津 耕陽, 木内 敬太, 林 勇吾	情報処理学会	特選論文賞	高齢者を対象としたチャットボットによる対話型の心理的支援: 解決志向アプローチを用いた実験的検討	2024年1月

7. 科学研究費助成事業(科研費)						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	若林 宏輔	日本版司法取引制度の受諾要因の実験心理学的検討	科研費・基盤研究(B)	2022年4月	2027年3月	代表者
2	稲葉 光行	デジタルフォレンジクスのための日本語著者識別システムに関する研究開発	科研費・基盤研究(C)	2023年4月	2027年3月	分担者
3	稲葉 光行	仮想空間を媒介とした日本文化に関する状況学習支援環境に関する総合的研究	科研費・基盤研究(B)	2020年4月	2025年3月	代表者
4	平岡 義博	科学的証拠を適正に活用するための学融的研究	科研費・基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	代表者
5	中村 正	男性性と暴力の臨床社会学的研究	科研費・基盤研究(C)	2019年4月	2025年3月	代表者
6	岡田 まり	コンピテンシーに基づくスーパーバイザー養成プログラムのモデル構築	科研費・基盤研究(B)	2019年4月	2024年3月	代表者
7	岡本 尚子	視線計測手法を用いた熟達教師の「技」の可視化: 教員養成での活用を目指して	科研費・基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	代表者
8	大谷 いづみ	生命倫理学前史・成立史における安楽死論とキリスト教の相剋に関する米英日比較研究	科研費・基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表者
9	春日 彩花	文化差を考慮した知恵評価指標の開発と国際比較	科研費・若手研究	2023年4月	2026年3月	代表者
10	矢藤 優子	女性の産後育児支援の多様性及び母子のwell-beingへの影響の日中韓比較研究	科研費・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)(B)	2020年10月	2025年3月	代表者
11	矢藤 優子	親子の社会的関係性に関する胎児期からの縦断研究: 子育て支援政策への提言をめざして	科研費・基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	代表者
12	山浦 一保	効果的な妬み緩和とマネジメントに関する検討: 多面的計測による介入対処策の提案	科研費・基盤研究(C)	2022年4月	2024年3月	代表者
13	北川 智利	音の身体性が心理情報処理に及ぼす影響の基盤解明とその応用	科研費・基盤研究(A)	2021年4月	2025年3月	代表者
14	高橋 康介	知覚像はどこまで自由に操れるのか: 知覚像制御の心的過程と脳内基盤の解明	科研費・基盤研究(A)	2023年4月	2027年3月	代表者
15	高橋 康介	長期フィールドワークを可能とする心理・認知特性とメンタルスキルの解明	科研費・基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表者

16	鈴木 華子	エスニシティとジェンダーの交差性からみる 在留外国人の精神的健康	科研費・基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	代表者
17	和田 有史	おいしさの認知科学の創出 一味嗅覚と多 感覚の統合の解明と伝送技術開発ー	科研費・基盤研究(A)	2023年4月	2027年3月	代表者
18	林 勇吾	学習者とAIが混在するハイブリッド協同学 習環境における相互教授に関する総合的 検討	科研費・基盤研究(B)	2023年4月	2028年3月	代表者
19	岡本 直子	能動的ギター療法の導入ー技法考案と効果 の検証を踏まえてー	科研費・基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	代表者
20	御旅屋 達	若者支援における総合相談窓口の設置・運 用実態とその効果に関する研究	科研費・基盤研究(C)	2022年4月～	2026年3月	代表者
21	大津 耕陽	笑い体験の振り返りに基づいて前向きな考 え方の形成を促すライフログ技術の実現	科研費・若手研究(B)	2023年4月	2026年3月	代表者
22	安藤 雅行	GPTによる高齢者の過去エピソードからの 話題生成と回想法のための対話システムの 構築	科研費・研究活動スタート支援	2022年4月	2024年3月	代表者
23	谷 晋二	言語的ルールが人の行動に及ぼす発達 的、実験的研究	科研費・基盤研究(C)	2021年4月～	2024年3月	代表者
24	美馬 達哉	中枢ー末梢チューニングによる感覚障害の オシロセパピューティクスの創出	科研費・挑戦的研究(萌芽)	2023年6月	2025年3月	代表者
25	美馬 達哉	クローズドループ刺激による非侵襲的 Deep Brain リハビリテーションの創生 研究課題	科研費・基盤研究(A)	2023年4月	2027年3月	代表者
26	美馬 達哉	脳卒中超回復者の脳再構成を静的・動的磁 場で誘発される脳波変調で解明する	科研費・新学術領域研究(研究領域提 案型)	2022年4月	2024年3月	代表者
27	柴田 史久	時空間映像データの高度利用のための循 環型フレームワークの構築	科研費・基盤研究(B)	2021年4月	2025年3月	代表者
28	木村 朝子	仮想物体への接触感を提示する先端伸縮 型デバイスの研究	科研費・基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	代表者
29	橋口 哲志	温度錯覚を活用した液体への温度提示手 法に関する研究	科研費・基盤研究(C)	2021年4月	2026年3月	代表者
30	柏木 智子	生活困窮世帯の生徒の学力保障のための 学習支援事業運営に関する研究	科研費・基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	代表者

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	岡田まり	障害者の地域での自立生活支援	ユニバーサル財団研究助成	2022年11月	2023年3月	代表者
2	中村 正	フォスタリングソーシャルワーカー養成講座	日本財団助成金	2023年4月	2024年3月	代表者
3	中村 正	令和5年度DV加害者プログラム及び支援 員養成講座	京都府(京都府府民環境部男女共同 参画課)	2023年4月	2025年3月	代表者
4	石田 賀奈 子	乳児院・児童養護施設における言語インプ ット環境	日本電信電話株式会社 コミュニケーション科学基礎研究所 (共同研究)	2023年6月	2024年2月	代表者
5	斎藤 真緒	子ども・若者を権利主体とする包括的かつシ ームレスな子ども・若者ケアラー支援モデル の確立および社会資源の開発	日本財団助成金	2023年4月	2024年3月	代表者
6	大谷 いづ み	当事者視点による生命倫理教育・医療倫理 教育に関する研究	(公財)生存科学研究所研究助成	2023年4月	2024年3月	代表者
7	春日 彩花	個人の「知恵」の形態と生活文脈の関連ー人 生を通じて発達する「知恵」とは何か？ー	ジェロントロジー研究助成	2022年10月	2024年3月	代表者
8	サトウツツヤ	人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の 循環型共同教育の実践	福島イノベーション・コースト構想推進 機構が実施する「大学等の『復興知』 を活用した人材育成基盤構築事業」	2021年6月	2026年3月	代表者
9	林 勇吾	「認知的コラボレーションと支援」に関する学 術融合研究:心理学と情報科学の融合	RARA アソシエイトフェロー	2023年4月	2028年3月	代表者
10	林 勇吾	高齢者の認知的コミュニケーション支援に向 けた学際研究拠点形成	R-GIRO	2021年4月	2026年3月	代表者 (プロジェ クトリーダ ー)
11	津止 正敏	男性介護者のネットワークのフィールド調査	男性介護ネット(寄付金)	2023年4月	2024年3月	代表者

